

年 報 31

2014年度
(平成26年度)

2015.8

山梨県埋蔵文化財センター

序

当センターは昭和57年に、山梨県教育委員会の埋蔵文化財保護を担う専門機関として開所して以来、本年で33年、三分の一世紀を経ようとしています。当初は2担当制(課未満の2つの係のみ)でスタートしましたが、平成12年度になって調査研究課・資料普及課の2課制になり、調査研究と普及活用をバランス良く取り組む体制となりました。さらには平成26年4月に資料普及課を史跡資料活用課と改称し、県有の史跡の保存管理にも重点をおいた現状の体制となっております。

本書は平成26(2014)年度に当センターが実施した発掘調査・試掘調査及び立会調査等の概要と、普及事業の概要を報告するものです。

26年度においては、開発事業に伴う発掘調査は7事業12件、整備事業に伴う調査は1件、遺跡の有無を把握するための試掘調査及び小規模工事などに伴う立会調査は26件を数えました。一方、史跡資料活用関係の事業として、出前支援事業、発掘体験セミナー、職場体験、資料貸出し、講座講演会、現地見学会、各種イベント等があり、参加者総数は8,000余人となっております。

26年度事業で特筆すべきは、甲斐鏡子塚古墳史跡指定85周年と大丸山古墳史跡指定1周年を記念し、山梨県立考古博物館・甲府市教育委員会との共催で開催したシンポジウム「古代東国と畿内王権—甲斐中道古墳群の検討から—」(平成26年11月22日開催)があげられます。県内外の研究者から山梨の前期古墳をめぐる最新の研究成果を報告いただき、今後の保存活用を含めた研究の課題等を深めることができました。さらに、展示活動として「山梨の遺跡発掘展2015」や信玄公祭りに関連した「甲府城特別展」なども実施してまいりました。

当センターでは、埋蔵文化財の調査研究、史跡の保存活用、それらに係る情報の発信、学校や生涯学習の場を通じた普及活動等々に可能な限り励んでまいりたいと考えております。これらのためにも、本書をご活用いただくとともに、私どもの埋蔵文化財保護の取り組みに対し一層のご理解・ご協力をお願いいたします。

2015年8月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 出月洋文

目 次

序

凡例・職員組織

第Ⅰ章 2014年度の事業概要

1	発掘調査等	1
2	整理作業	1
3	資料普及事業	2
4	収蔵資料の貸出し及び掲載許可一覧	4
5	第27回市町村埋蔵文化財専門職員研修会	10
6	遺跡調査発表会	10
7	シンポジウム・講演会	11
8	知ろう山梨の歴史！山梨の遺跡発掘展2015	12
9	広報誌「埋文やまなし」	13
10	県指定史跡甲府城跡活用事業	13
11	遺跡データ管理(GIS)	15
12	報告書PDF化(遺跡資料リポジトリ)	15
13	埋蔵文化財センター峡北収蔵庫遺跡まなび館	15
14	寄贈・購入図書	15

第Ⅱ章 各遺跡の発掘調査等概要

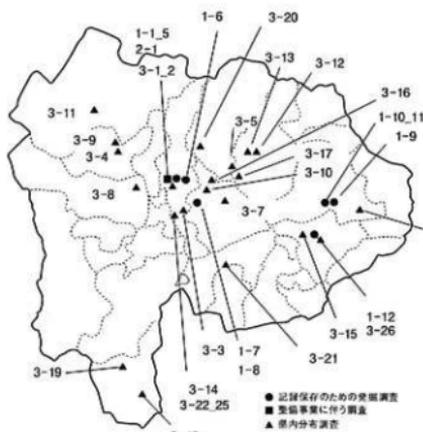
1	記録保存のための発掘調査	
1-1	甲府城跡(県庁舎耐震化等整備事業：委員会室棟第3次)	16
1-2	甲府城跡(県庁舎耐震化等整備事業：本館・別館間渡り廊下)	18
1-3	甲府城跡(県庁舎耐震化等整備事業：試掘)	19
1-4	甲府城跡(県庁舎耐震化等整備事業：立会)	22
1-5	甲府城下町遺跡(南口修景計画：甲府城下町中央分離帯地点)	26
1-6	大坪遺跡(国道140号緊急道路整備改築事業)	28
1-7	身洗沢遺跡(笛吹スマートインターチェンジ建設事業：予備調査)	30
1-8	身洗沢遺跡(笛吹スマートインターチェンジ建設事業：本調査)	31
1-9	堂地遺跡(国道20号大月バイパス改築事業)	33
1-10	花咲水園連遺跡(国道20号大月バイパス改築事業)	34
1-11	大石遺跡(国道20号大月バイパス改築事業)	35
1-12	谷村城(甲府地方家庭裁判所都留支部新庁舎建設事業)	36
2	整備事業に伴う調査	
2-1	県指定史跡甲府城跡石垣整備事業	38
3	県内分布調査	40

第Ⅲ章 県内の概況

1	届出件数と内容	54
2	発掘調査	54
3	国指定有形文化財(考古資料)及び国指定史跡	54
4	発掘調査の成果と保存整備事業	54
5	発掘調査体制	55
	発掘届出件数・発掘調査件数の推移・2014年度県内発掘調査一覧表	56～60

凡 例

- 1 本書は、2014年度(平成26年度)の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。
- 2 本書の編集は、石神孝子・吉田秀樹・小池準一が行った。
- 3 2014年度の収蔵資料の貸出し及び掲載許可一覧、発掘調査一覧表は2015年3月末日現在で集計したものである。
- 4 第2章各遺跡の発掘調査等概要における発掘調査面積の()内は、調査対象面積である。
- 5 左記の地図は、2014年度発掘調査遺跡の位置図である。なお、地図中の番号は、1頁の発掘調査の表に対応している。



2014年度 発掘調査等遺跡位置図

2014 (平成26)年度 職員組織

所 長	八 卷 與 志 夫
次 長 (兼)	出 月 洋 文
総務課長 (兼)	出 月 洋 文
調査研究課長	保 坂 康 夫
史跡資料活用課長	山 本 茂 樹

総 務 課	
副 主 査	深 沢 武 人
主 任	中 山 尚 行
主 任	浦 郷 敬
主 事	櫻 井 綾 夏

調査研究課 調査第一担当	
副主幹・文化財主事(岩手県派遣)	今 福 利 恵
副主査・文化財主事	網 倉 邦 生
文化財主事	柴 田 亮 平
非常勤嘱託	塩 谷 風 季

史跡資料活用課 資料第一担当	
主 査・文化財主事	宮 里 学
主 査・文化財主事	正 木 季 洋
文化財主事	久 保 田 健 太 郎

調査研究課 調査第二担当	
副主幹・文化財主事	田 口 明 子
主 幹・文化財主事	篠 原 真 史
主 幹・文化財主事	青 木 真 一
文化財主事	御 山 亮 濟
非常勤嘱託	加 々 美 鮎 実

史跡資料活用課 資料第二担当	
副主査・文化財主事	野 代 恵 子
副主査・文化財主事	山 井 正 昭
専 門 員	米 田 明 調
非常勤嘱託	長 田 隆 志

調査研究課 調査第三担当	
副主幹・文化財主事	吉 岡 弘 樹
主 幹・文化財主事	浅 川 一 郎
文化財主事	須 長 愛 子
非常勤嘱託	新 津 茂

第 I 章 2014年度の事業概要

1 発掘調査等

2014年度の発掘調査等は、以下のとおりである。各道路の概要は、第 II 章で述べることとする。

1) 記録保存のための発掘調査

番号	調査名	番号	調査名
1-1	甲府城跡（旧庁舎敷設工事等整備事業：委員会第3次）	1-7	身延沢遺跡（防吹スマートインターチェンジ建設工事：予備調査）
1-2	甲府城跡（旧庁舎敷設工事等整備事業：本館・別館跡及び跡地）	1-8	身延沢遺跡（防吹スマートインターチェンジ建設工事：本調査）
1-3	甲府城跡（旧庁舎敷設工事等整備事業：武蔵）	1-9	中道遺跡（国道20号大月バイパス改修事業）
1-4	甲府城跡（旧庁舎敷設工事等整備事業：武蔵）	1-10	赤坂町水田遺跡（国道20号大月バイパス改修事業）
1-5	甲府城下町遺跡（旧119番地跡：甲府城下町中央分館敷地）	1-11	大石遺跡（国道20号大月バイパス改修事業）
1-6	大坪遺跡（国道10号架設工事等整備事業）	1-12	付村城（甲府地方家範裁判所附支部庁舎建設工事）

2) 整備事業に伴う調査

番号	調査名
2-1	県庁定免跡甲府城跡石垣整備事業

3) 県内分布調査

番号	事業名	番号	事業名
3-1	郡山町道路「古中・中成地区整備事業」：旧下町（甲府城下町遺跡）	3-14	管轄正統公園整備事業（御免保北遺跡）
3-2	町内敷田（旧津地）地籍整理事業（中央分館）（甲府城下町遺跡）	3-15	県立郡立高等学校（旧建設電気設備事業（シノ部遺跡））
3-3	県庁整備推進道路東部区間建設事業（甲府市小島町地区）	3-16	諏訪湖治水事業（隈野山遺跡・鶴岡遺跡）
3-4	国道11号線見守り安全安心事業（宮ノ前第4遺跡・宮本遺跡）	3-17	旧川原町治水管理道路建設事業（旧水田跡）
3-5	西内東進路道路建設事業	3-18	大石石急傾斜地対策事業（大石石急傾斜地）
3-6	県庁住宅高田地区駐車場整備事業（南堀之内遺跡）	3-19	御免保急傾斜地対策事業（旧町上遺跡）
3-7	県庁住宅高田地区駐車場整備事業（北中塚遺跡）	3-20	押手沢急傾斜地対策事業（押手沢遺跡）
3-8	県庁住宅高田地区駐車場整備事業（坂の上土塚遺跡）	3-21	岡田公園等整備事業（湖合園整備事業）
3-9	臨時警察署穴山駐在所移転整備事業（鹿足遺跡）	3-22	管轄正統公園水田管理事業
3-10	県立かみでま女子学校分教習体育館建設事業（風見遺跡）	3-23	管轄正統公園方形形跡皇紀帯ベンチ等設置事業（上の下遺跡）
3-11	県立農業大学校分教習体育館建設事業	3-24	管轄正統公園水田管理事業
3-12	同谷施設整備保全事業（旧吹川沿地区）（越後遺跡）	3-25	管轄正統公園跡英公館跡整備事業（石浜水田跡）
3-13	同谷施設整備保全事業（旧吹川沿地区）（室造り遺跡）	3-26	甲府地方家範裁判所附支部新庁舎建設工事（付村城）

2 整理作業

2014年度の整理作業は、以下のとおりである。

1) 基礎的整理作業

番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	甲府城跡（旧庁舎敷設工事等整備事業：委員会第1～第3次・別館）	4	赤坂町水田遺跡（国道20号大月バイパス改修事業）
2	身延沢遺跡（防吹スマートインターチェンジ建設工事）	5	大石遺跡（国道20号大月バイパス改修事業）
3	中道遺跡（国道20号大月バイパス改修事業）	6	付村城（甲府地方家範裁判所附支部新庁舎建設工事）

2) 本格的整理作業

番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	大坪遺跡	6	本城白遺跡
2	平林遺跡	7	
3	県庁定免跡甲府城跡	8	
4	高沢遺跡（第3・4次）	9	
5	甲府城下町遺跡（諏訪新橋敷地）	10	

3) 報告書刊行一覧

番号	報告書名	番号	報告書名
第300集	大坪遺跡	第301集	高沢遺跡（第3・4次）
第301集	赤坂町遺跡・廻り田遺跡地区	第302集	甲府城下町遺跡（諏訪新橋敷地）
第302集	平林遺跡	第303集	本城白遺跡
第303集	県庁定免跡甲府城跡	第307集	出雲県内分布調査報告書（平成25年1月～12月）

3 資料普及事業

2014年度(平成26年度)に実施した事業は、県内の小中学校等へ向いて「古代の体験」(土器作り・火起こし体験など)に関する支援を行う「出前支援事業」を実施し、授業の中で児童生徒のみなさんが、地域の歴史に興味関心をもつきっかけの場を提供した。また発掘調査の現場で実際に発掘を体験する「発掘体験セミナー」では、広く一般の方々に土器や石器を掘り出すワクワク感を味わっていただき、足下に眠る歴史に興味をもってもらった。この他にも講座・講演会等への講師派遣や、学校の教職員を対象とした、授業への埋蔵文化財の活用をはかるための「古代を実体験!授業づくり研修会」、一般の方々を対象とした遺跡現地説明会、山梨県考古学協会との共催による遺跡発表会などを実施した。また考古博物館との共催事業としては11月20日(県民の日)に「体験!!古代人」、3月1日には「春まつり」と称した古代体験イベントを開催し、子どもから大人まで楽しみながら地域の歴史を学ぶ機会を提供した。これらの事業以外にも、遺物貸出キット・火起こし道具など考古資料の貸出も行った。また、文化庁の史跡等総合活用支援推進事業に関する国庫補助金を受けて、古代の人たちの生活や知恵などについて年間を通じて学ぶ「体験してみよう!!古代の生活スタイル」や県指定史跡甲府城跡を活用した展示会・子どもから大人まで各年齢層にあった学習会・甲府城の歴史や石垣の技術を知ってもらうための体験イベントなどを実施した。年度末には、当センターと県内市町村教育委員会が2014年度に実施した発掘調査・整理作業などの最新の成果を公開する「山梨の遺跡発掘展2015」を開催した。



出前支援事業(土器作り)



出前支援事業(土器に触れて見学)



遺跡現地説明会



体験してみよう!!古代の生活スタイル考古学の仕事を体験しよう(土器の実演)



発掘体験セミナー



体験してみよう!!古代の生活スタイル富士山から見つかった古銭で拓本体験



古代を実体験!授業づくり研修会



体験してみよう!!古代の生活スタイル縄文フルコースはいかがですか?



春まつり 鏡づくりに挑戦!

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名	
				富士御室浅間神社2合日本宮	銭貨30点
				富士御室浅間神社里宮片山社	銅形鉄製品
				富士御室浅間神社里宮片山社	墨書権1点
				富士御室浅間神社里宮片山社	朱書権1点
				富士御室浅間神社里宮片山社	水品1点
				富士御室浅間神社里宮片山社	権・證720点
13	7.13	山梨弥生文化研究会	土器の検討会を行うため	村前東A遺跡	土器13点
				東山北遺跡	土器15点
14	7.22～8.29	山梨市教育委員会	企画展「山梨の道跡展2014」巡回展に展示のため	上コブテ遺跡	縄文土器2点
15	7.20～9.2	九州国立博物館	文化交流展「海の道、アジアの路」で展示のため	安道寺遺跡	縄文土器1点
				一の沢遺跡	縄文土器1点
				海道前C遺跡	縄文土器1点
				甲ヶ原遺跡	縄文土器1点
				酒呑場遺跡	縄文土器1点
				上コブテ遺跡	縄文土器1点
				上野原遺跡	縄文土器1点
16	9.2～12.17	昭立博物館	企画展「甲斐の黒駒」に展示のため	甲斐駒子塚古墳	縄(レブリカ)1点
				かんかん塚古墳	簪1点
				かんかん塚古墳	鍬1点
				平林2号墳	刀袂共2点
				平林2号墳	玉釧7点・2式
				平林2号墳	耳飾2点
				平林2号墳	帯金共2点
				平林2号墳	鏡2点
				近々芽本遺跡	土馬2点
				風原遺跡	墨書土器4点
17	9.21～1.28	横浜市歴史博物館	企画展「大おにぎり展」に展示のため	酒呑場遺跡	ダイヤ瓦土器1点
				酒呑場遺跡	豆圧痕土器片2点
				天神C遺跡	豆圧痕土器片2点
				中谷遺跡	コブテ型土器
18	9.30～1.21.9	静岡市立豊昌博物館	特別展「縄文そして役員」	一の沢遺跡	縄文土器4点
				安道寺遺跡	縄文土器1点
				宮の前遺跡	縄文土器2点
				系部原遺跡	縄文土器1点
				一の沢遺跡	土偶1点
				一の沢遺跡	石器23点
19	11.8～平成27.11.13	甲府市教育委員会	地域振興複合施設落成記念で展示するため	大丸山古墳	銅甲レブリカ1点
				大丸山古墳	手斧レブリカ1点
				鎌子塚古墳	鏡2点
20	平成27.3.10～5.26	中央市豊富郷土資料館	企画展「鏡」に展示のため	大塚古墳	鏡柄造品1点
21	平成27.2.10～4.24	高崎市教育委員会	特別展「イノシシの考古学」展に展示のため	一の沢遺跡	縄文土器2点
				美通遺跡	縄文土器1点
				上の平遺跡	縄文土器1点
				安道寺遺跡	縄文土器1点
				原町農業高校前遺跡	縄文土器1点
				甲ヶ原遺跡	縄文土器1点
				大木J遺跡	縄文土器1点
				花鳥山遺跡	縄文土器1点
				上コブテ遺跡	土製品1点

古代衣装貸出し一覧

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名
1	5.8～5.29	志野村立志野小学校	社会科の授業で使用	胡服 2着 女官 2着 官吏 2着
2	5.29～6.8	富士宮市立山宮小学校	社会科の授業で使用	貫頭衣 1着 胡服 1着 巫女 1着 女官 1着 官吏 1着
3	10.12～11.1	由梨県立かえて支援学校	学園祭の演劇で使用	貫頭衣 2着 胡服 2着 巫女 2着 女官 2着 官吏 2着
4	11.16～11.29	由梨県立かえて支援学校	学園祭の演劇で使用	貫頭衣 2着 胡服 2着 巫女 1着 女官 1着 官吏 2着
5	11.16～11.26	富士宮市立大富士小学校	学習発表会で使用	貫頭衣 1着 胡服 1着 巫女 2着
6	11.22～12.6	由梨県立やまびこ支援学校	社会科の授業で使用	貫頭衣 1着

収蔵画像資料貸出し・撮影許可一覧(入件順)

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名
1	3月28日	作ナイスク	「まきこふんの古墳ブック」に掲載のため	平林2号墳 全周1点
2	4月11日	(株)山梨放送	テレビ番組「知られざる甲府城の歴史」に放送のため	甲府城跡 縄瓦など11点
3	4月14日	株潤育	県公立高校生入学試験対策用過去問題集に掲載のため	甲斐鏡子塚古墳 遺跡全景1点
4	4月15日	日本考古学会	「考古学雑誌」第96巻4号に掲載のため	一の沢遺跡 深鉢形土器・土偶3点
5	4月18日	(株)敏文社	《日本の歴史 私の最新講義》シリーズ「縄文社会と弥生社会」	安道寺遺跡 深鉢形土器1点
6	4月5日	信吹きらめきテレビ株	テレビ番組「ふるさと遺産～若草野の里を歩く～」に放送のため	甲斐鏡子塚古墳・丸山塚古墳 遺跡全景1点
7	5月27日	日本放送協会	テレビ番組「くらしの解説」で放送のため	甲府城 全体模型1点
8	5月20日	株日本石材工業新聞社	コラム「お墓の歴史と現代社会」に掲載のため	甲斐鏡子塚古墳・丸山塚古墳 遺跡全景1点
9	5月26日	株フラジャイル	テレビ番組「噂の!東京マガジン」で放送のため	甲府城跡 縄瓦一括 甲府城跡 縄瓦復元図1点
10	6月13日	茅野商工会議所	写真展「縄文の夜神楽」パンフレットに掲載のため	安道寺遺跡 深鉢形土器1点
11	6月13日	香芝史二上山博物館	ふたかみ郡馬古国シンポジウム「馬古国時代の甲・信と大和」資料集に掲載のため	村前東A遺跡 空襲写真1点 村前東A遺跡 美形土器1点 堀部遺跡 美形土器1点 上の平遺跡 遺跡全景1点 甲斐鏡子塚古墳・丸山塚古墳 遺跡全景1点

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名
12	6月17日	株塚山園	『季刊考古学』第128号に掲載のため	瓶沢河跡跡 マグロ瓶遺体1点
13	7月5日	株平凡社	『別冊太陽 日本美術史入門』に掲載のため	緑林道跡 深鉢形土器1点
14	6月27日	株ルミエール	山梨の縄文文化紹介のため	海道前C道跡 深鉢形土器1点 一の沢道跡 深鉢形土器1点
16	7月10日	草畑朋子	フリーペーパー『88』に掲載のため	海道前C道跡 深鉢形土器1点 甲ヶ原道跡 深鉢形土器1点
17	8月1日	和PIP研究所	『縄文人のくらし大研究・衣食住と心をさぐる』	酒呑場道跡 ディズド瓶土器など3点
18	8月8日	青森県立郷土館	特別展「発部食品パワー～ミクロのシェフとあおもり食文化～」	酒呑場道跡 ディズド瓶土器など2点
19	8月18日	信吹さらめきテレビ和	テレビ番組「ふるさと道産～縄文の千年を訪ねて～」で放送のため	一の沢道跡 出土状況など5点
20	9月3日	長野県立歴史館	長野県立歴史館日より vol.81号に掲載のため	原村大石道跡 土器片2点
21	9月13日	株山梨新報	新聞掲載のため	甲斐鏡子塚古墳 木製品2点
22	9月7日	横浜市歴史博物館	企画展「太おにきり展・出土資料からみた説物の歴史」の図録等掲載のため	酒呑場道跡 ディズド瓶土器など3点
23	9月12日	静岡市教育委員会	倉原博物館特別展「縄文そして豊呂」の図録掲載などのため	一の沢道跡 深鉢形土器4点 安道寺道跡 深鉢形土器1点 宮の前道跡 深鉢形土器1点 重郎原道跡 深鉢形土器1点 一の沢道跡 土俵1点 一の沢道跡 石器集合1点 宮の前道跡 出土状況1点 一の沢道跡 出土状況2点 一の沢道跡 道跡全景1点
24	9月8日	南アルプス市教育委員会	展示「色の魅力」および出版物に掲載のため	大師東丹保道跡 鏡1点 油田道跡 製作1点 大加東丹保道跡 古墳全景1点 百々道跡 道跡全景1点 大師東丹保道跡 下駄1点
25	10月7日	国立歴史民俗博物館	総合誌「歴史」187号に掲載のため	酒呑場道跡 ディズド瓶土器1点
26	10月14日	エクセレントライフ和	写真集「縄文の夜神楽」に掲載のため	安道寺道跡 深鉢形土器1点 酒呑場道跡 深鉢形土器1点
27	10月17日	株ロム・インターナショナル	「知識ゼロからの古墳入門」に掲載のため	甲斐鏡子塚古墳 道跡全景1点
28	10月22日	株どりむ社	教育情報誌に掲載のため	展示室 空撮写真1点

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名	
				甲斐鏡子塚古墳	鏡1点
				体験イベント	実景風景1点
				岡道跡	容器形土偶1点
29	11月1日	㈱KADOKAWA 中村出版 販売ブランドカンパニー	『歴史読本』2014年12月号に掲載のため	甲斐鏡子塚古墳・丸山古墳	道跡全景1点
				甲斐鏡子塚古墳	木製品集合1点
				甲斐鏡子塚古墳	木製品出土状況1点
30	12月3日	㈱グレイル	『古墳の地図帳』に掲載のため	甲斐鏡子塚古墳	道跡全景1点
				甲斐鏡子塚古墳	木製品出土状況2点
31	12月3日	修徳山園	『季刊考古学』第130号に掲載のため	宮の前道跡	土器埋設道標1点
32	12月3日	赤魚川市教育委員会	赤魚川フィッシュマグナムミュージアム展示場 掲載のため	天神C道跡	大珠1点
33	12月19日	県工業技術センター	山梨県固有のデザインソースの編集とアーカイブ 構築のため	高瀬池道跡	密形土器1点
				平林2号墳	金環1点
				二之宮・堤塚道跡	須恵器1点
				身洗沢道跡	木製品1点
				瀬沢河原跡	甲冑半分金1点
				岡道跡	容器形土偶2点
				大木戸道跡	土偶1点
				原町農業高校前道跡	深鉢形土器1点
				塚原下原道跡	釣手土器1点
				一の沢道跡	深鉢形土器2点
				酒呑場道跡	深鉢形土器2点
				上の平道跡	深鉢形土器3点
				天神C道跡	深鉢形土器1点
				甲ヶ原道跡	台付鉢形土器1点
				南道前C道跡	台付鉢形土器1点
				上野原道跡	深鉢形土器1点
				水口道跡	中谷道跡1点
				甲府城跡	軒杖瓦1点
				酒呑場道跡	土鈴3点
				上の平道跡	土偶1点
				古舞塚古墳	太刀柄頭(レプリカ) 1点
				寺の前2号墳	太刀柄頭(レプリカ) 1点

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名	
				杜野遺跡	土偶(レプリカ) 1点
				様観堂遺跡	泥塔1点
				大塚古墳	埴輪(レプリカ) 1点
				大塚古墳	埴輪(レプリカ) 1点
34	1月19日	高崎市教育委員会	特別展「イノシシの考古学」展で使用するため	一の沢遺跡	深鉢形土器1点
				一の沢遺跡	釣手土器1点
				天通遺跡	鉢形土器1点
				上の平遺跡	深鉢形土器1点
				安道寺遺跡	深鉢形土器1点
				原町農業高校前遺跡	深鉢形土器1点
				甲ヶ原遺跡	深鉢形土器1点
				大木戸遺跡	深鉢形土器1点
				花島山遺跡	深鉢形土器1点
				上コブケ遺跡	土製品1点
				宮の前遺跡	釣手土器1点
35	3月5日	南相木村教育委員会	「南相木村遺跡史編 原始・古代・中世」に掲載のため	酒呑場遺跡	テイス皿土器2点
36	3月6日	久慈城跡博物館	企画展「縄文文化の“赤”と“緑”～古代のアクセサリー～」で使用のため	天神C遺跡	垂飾1点
37	3月9日	大月市教育委員会	常設展示に利用のため	塩瀬F原遺跡	住居跡1点
				大月遺跡	調査区全景1点
38	3月18日	森 和敏	「甲斐古代豪族の系譜」に掲載のため	甲斐鏡子塚古墳	遺跡全景1点
39	3月19日	㈱アトリエ・NOA	テレビ番組「趣味ときっ!」同家に会いに行くで放映のため	殿林遺跡	深鉢形土器1点
				海道前C遺跡	深鉢形土器1点
				展示状況	展示室全景

5 第27回市町村埋蔵文化財専門職員研修会

山梨県指定史跡等の修理(復旧)や復元事業等が例年実施される中、設計や積算、監理等について、その仕組みや方法を体系的に理解する研修会や講習会等の機会がなかった。このような知識や技術を習得することは、発注ミスや抑止や文化財的価値を損なうような作業計画を未然に防ぐことに繋がると考えられるため、2014年度の市町村研修会として、全7回実施した。会場はいずれも山梨県埋蔵文化財センター丸の内調査事務所である。

- 第1回 9月26日「文化財修理(復旧)事業の歴史と現状」文化財石垣保存技術協会幹事 真鍋建男
- 第2回 10月16日「設計業務の流れ」雄測量設計株式会社 有井圭司
- 第3回 11月 6日「公共工事の知識と文化財公共工事の特色①」丸光建設(株) 望月秀洋
- 第4回 11月27日「公共工事の知識と文化財公共工事の特色②」丸光建設(株) 望月秀洋
「史跡武田氏館跡の整備計画」甲府市教育委員会 佐々木 満
- 第5回 12月 4日「文化財専門職員に求められる土木工事等の基礎知識①」(公財)山梨県建設技術センター 望月吉也
- 第6回 12月 4日「文化財専門職員に求められる土木工事等の基礎知識②」(公財)山梨県建設技術センター 望月吉也
- 第7回 12月17日「山梨県の歴史的建造物の特徴」山梨県教育庁学術文化財課長 田中植彦
「近世甲斐の大地震と被災状況」元国立歴史民俗博物館客員教授 北原糸子
「文化財保護法と史跡の保存活用」山梨学院大学名誉教授 椎名慎太郎

6 遺跡調査発表会

遺跡調査発表会は、山梨県考古学協会と共催で、上半期と下半期の年2回開催している。県内の最新発掘情報を広く県民に発信する場であり、スライドなどを使用したわかりやすい発表となっている。また、出土品や写真パネルのミニ展示も併設している。

○2014年度上半期遺跡調査発表会【参加者約80名】

開催日時：2014年10月18日(土) 午後1時30分～4時10分

開催場所：風土記の丘研修センター 講堂

- 発表1 甲州市：熊野八反田遺跡(発表者 甲府市教育委員会 入江俊行)
古墳時代前期集落跡であり、焼失住居と畑の一部と考えられる畝状遺構が発見された。住居跡5軒、溝54本、流路2本、土坑1基、小穴41基が発掘された。
- 発表2 甲府市：甲府城下町遺跡相生小学校地点(発表者 甲府市教育委員会 志村憲一)
甲府城下町遺跡の発掘調査として、初めて城下町南端の二の堀外の武家屋敷跡を確認できた。建物跡の中央部分から灯明受け皿5枚が伏せられた状態で検出され、その内4枚の皿内から水晶片が出土し、地鎮に関係する遺構と考えられる。
- 発表3 甲府市：甲府城跡委員会室棟地点(発表者 山梨県埋蔵文化財センター 正木季洋)
江戸時代前期の敷石遺構が発見され、分析の結果、遺構上には硫黄を含んだ水分が溜まっていたことが判明している。当時の絵図との照合で、城内に温泉に関係する施設が存在した可能性が高くなった。
- 発表4 南アルプス市：前御勅使川堤防址群(発表者 南アルプス市教育委員会 斉藤秀樹)
御勅使川旧流路右岸の集落や田畑を守っていた堤防遺跡である。明治31年に徳島県から将棋頭まで石籠堤が築かれ、前御勅使川は役割を終え、同時に右岸を守ってきた堤防もその歴史に幕を下ろした。

○2014年度下半期遺跡調査発表会【参加者約80名】

開催日時：2015年3月14日(土) 午後1時00分～4時10分

開催場所：山梨文化財研究所 大ホール

- 発表1 北杜市：上原遺跡(発表者 北杜市教育委員会 佐野 隆)
- 発表2 甲州市：白山平経塚(発表者 帝京大学文化財研究所 棚原功一)
- 発表3 韮崎市：武田東畑遺跡(発表者 韮崎市教育委員会 関岡俊明)
- 発表4 都留市：谷村城(発表者 山梨県埋蔵文化財センター 網倉邦生)
- 発表5 甲府市：甲府城下町遺跡駅前駐輪場地点(発表者 山梨県埋蔵文化財センター 御山亮済)



7 シンポジウム・講演会

シンポジウム・講演会としては、考古学と関連諸分野の研究者との連携により実施した埋蔵文化財シンポジウムや、その時々テーマでの講演会などを実施し成果を上げてきた。平成26年度は、古墳に関するシンポジウム1回、富士山信仰に関する講演会1回を実施した。

●シンポジウム「古代東国と畿内王権 —甲斐中道古墳群の検討から—」平成26年11月22日(土)

エクスカーション(中道古墳群(甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園内)巡回)平成26年11月23日(日)

甲斐鏡子塚古墳史跡指定85周年と大丸山古墳史跡指定を記念して、当埋蔵文化財センターおよび山梨県立考古博物館と甲府市教育委員会との共催で実施した。本年度は、史跡甲斐鏡子塚古墳 附丸山塚古墳(昭和5年2月28日)から85周年にあたる。また大丸山古墳の告示や天神山古墳の調査成果も加わり本県の前期古墳に関する再評価と関心が高まったこともあり、文献や古道からの解釈、奈良との比較、最新の発掘成果等をテーマに研究者からの講演と史跡散策を実施した。

〈報告・講演〉

報告1「最新の研究成果—天神山古墳—」平塚洋一氏(甲府市教育委員会)

報告2「最新の研究成果—甲斐鏡子塚古墳—」吉岡弘樹氏(当埋蔵文化財センター)

報告3「甲斐の前期古墳をめぐる検討課題」小林健二氏(山梨県立考古博物館)

報告4「甲斐の前期古墳をめぐる研究史」宮澤公雄氏(公財)山梨文化財研究所

講演1「畿内からみた甲斐の前期古墳」水野敏典氏(奈良県立橿原考古学研究所)

講演2「中道古墳群の隆衰—中期における大型古墳の欠如—」土生田純之氏(専修大学)

講演3「文献から見た甲斐の古墳時代」大隅清陽氏(山梨大学)

●講演会「信仰の山 富士山 ～山梨・静岡両県の発掘調査から探る～」平成26年11月30日(日)

山梨県内でこれまでに実施してきた富士山信仰に関する調査成果に加えて、普段はなかなか知る機会のない静岡県側の調査成果を含めて、考古学的な最新の調査成果を広く一般に知っていただくことを目的に開催した。また、発掘調

査により得られた成果をどう還元していけるのかなど、富士山信仰に関する今後の調査の必要性や保護・活用のあり方について考えるきっかけとなった。

〈総括と展望〉

「富士山信仰と考古学」坂詰秀一氏(立正大学名誉教授)

〈事例報告〉

1 「富士山総合学術調査研究の概要と成果」

堀内 真氏(山梨県立博物館)

2 「考古学的見地からの富士山信仰について―静岡県的事例を中心として―」

渡井英蓉氏(富士宮市教育委員会)

3 「遺跡にみる富士山の災害と信仰―吉田口を中心に―」

篠原 武氏(富士吉田市教育委員会)

4 「山梨県における富士山信仰遺跡の調査」

野代恵子氏(当理蔵文化財センター)



講演会の様子

8 知ろう山梨の歴史！山梨の遺跡発掘展2015

今年度から「山梨の遺跡展」は「山梨の遺跡発掘展」と名称を改めた。原則として、2014年度中に県内で実施された発掘調査・普及活動などの成果を展示したが、その前年度の発掘調査でありながらも未公開の優れた発掘品も併せて展示した。この展示会は、県民の埋蔵文化財に対する理解と、郷土への歴史的認識を深めてもらう場として毎年開催しており、今年で27回目となる。開催期間は2015年3月7日～4月5日までで、県立考古博物館企画展示室を会場とした。今回は、遺跡の相互の関連性、時代の連続性、遺跡の分布調査、資料の活用等の視点から次の5部構成の展示を行った。第1部は「甲府城跡と城下町遺跡」と題し、近世城郭である甲府城城内及びその城下町の調査成果を紹介した。とくに甲府城跡県庁内委員会室棟地点では、発見された敷石遺構や石組み水路等が温泉に関連するものと考えられ、近世城郭内では極めてまれな事例として注目された。この遺跡の見学会には県内外から250名を超える多数の参加者が集まった。また甲府城下町遺跡旧相生小学校地点の調査では、城下町南端の二の堀外の武家屋敷跡を初めて確認することができた。発掘された建物跡の中央部分から灯明受け皿5枚が伏せられた状態で検出され、その内4枚の皿内から水晶片が出土している。地鎮の祭祀に関係する珍しい遺構と思われる。

第2部は「縄文時代～古墳時代」と題し、縄文時代については、北杜市白州町の竹字1遺跡出土例をはじめ、出産土器をテーマとする土器類を展示した。また出産土器とは別に、土器の割れ目からダイズの痕が発見された竹字1遺跡出土の器台形土器や、破損した蛇体装飾の断面からダイズ痕が見つかった北杜市長坂町酒呑場遺跡の土器(国指定重要文化財)も展示した。続く古墳時代のコーナーでは、新たに県指定文化財となった国指定史跡鎌子塚古墳出土の木製品も展示した。

第3部は「平安時代～江戸時代」と題し、韮崎市宮ノ前遺跡や富士河口湖町流沢遺跡などから出土した平安時代の「製塩土器」とそれに関係する展示を行った。また、武田信義もしくはその親族との関係が推測される鎌倉時代の韮崎市武田東畑遺跡や、県内初めての近世陣屋跡調査となった都留市谷村の谷村城などの出土遺物なども展示した。そのほか、現在国の重要文化財に指定されている「康和の経筒」に関連し、経筒が発見された甲州市の柏尾山大善寺東側の山林に所在する経塚群である白山平経塚の最新発掘調査の出土品なども展示された。

第4部は「遺跡と共存するために」と題し、埋蔵文化財の保存と公共事業の両立を図る遺跡の分布調査事業等を、また当センターと笛吹市教育委員会の職員が東日本大震災復興支援のために、岩手県で復興支援にあたっている様子を紹介した。

第5部は「発掘調査を活かす」と題し、当センターがこの1年間に県内外で実施してきた教育普及事業を紹介した。県内の学校への縄文土器作り体験や古代の火起こし体験などの出前支援事業、甲府城跡とその周辺を視野に入れた普及イベントの実施、初めての県外への普及活動となった兵庫県立考古博物館や静岡県立登呂博物館へのイベント参加、県立考古博物館と共催した数多くのイベント活動等が写真パネルで展示された。

9 広報誌「埋文やまなし」

第46号

当センターでは、各地に限る埋蔵文化財の発掘調査を体験する事業を行っている。

本号では、広く一般の方々へ埋蔵文化財調査事業の意味を知ってもらうとともに足下に眠る地域の歴史を学んでもらう貴重な機会となっている「発掘体験」に焦点を当てた特集号とした。発掘調査の進め方や調査を行うときの注意事項などを紹介し、発掘調査の大切さを知ってもらえるような内容とした。

第47号

本号は、当センター史跡資料普及課の普及活動で行っている事業一つである「出前支援授業」に焦点を当てた特集号とした。発掘調査の成果から多くのおみなさんに山梨の歴史を知っていただくため、学校へのお出前支援（土器作り・火起こしなど）や学校向け支援メニューの紹介、県内外での古代体験イベントへの参加など様々な取り組みを紹介し、支援メニューを活用していただく動機付けとなるような内容とした。

10 県指定史跡甲府城跡活用事業

県指定史跡甲府城跡（舞鶴城公園）は、平成2年から県上整備部主導で舞鶴城公園整備事業に着手し、文化財の保護と安全性の向上等を目的として城内の整備を実施してきた。2004年度には稲荷櫓が、2013年度には鉄門が復元整備され、公開されている。これらを拠点として、地域活性化や甲府城跡の歴史的風格を高めることを目的として、年間を通して様々な活用事業を実施している。2014年度は、甲府城跡や甲府城跡における石垣にどのような文化的価値があるかについて、調査研究の成果をもとに教育普及する活動と、城内での和楽器演奏会や鬼ごっこを通して広く県民に甲府城跡に親しみをもってもらう機会をつくる活動の2種類のイベントを実施した。

・信玄公祭り関連「甲府城特別展」

稲荷櫓2階では日本の郵便制度の確立に携わった人物の一人でもある杉浦譲に関する展示を行い、鉄門では関連展示として、甲府城跡内や城下町を始め県内各所の写真が印刷されたポストカードの展示を行った。また信玄公祭り関連イベントである「甲州寺子屋」において、八巻興志夫所長（当時）が杉浦譲に関する講演を行った。

・「春の鉄門展示」

5月18日（日）に復元整備した鉄門活用イベントを鉄門にて実施した。鉄門2階では違い鷹羽など甲府城にまつわる絵柄を描いたプラ板製作を、鉄門入口付近では、千両箱の重量挙げ体験や、泥めんこを使った江戸時代の遊び体験を行い、甲府城跡の歴史や江戸時代の文化に親しんだ。

・「ぶらっと城下町」

6月8日（日）に甲府市教育委員会との共催にて実施した。甲府城跡内の石垣と岩盤の露出状況を観察して歩き、石垣が岩盤に岩着して構築されていることで石垣が崩れにくくなっていることにより、文禄慶長期の石垣が大規模に残ることに繋がっていると考えられることを紹介した。県指定史跡の指定範囲外では、甲府城跡の北東部を東流する藤川や、よっちゃばれ広場の石垣露出展示等を見学した。

また当日は、県庁構内委員会室棟建て替えにもなって発見された数石遺構の見学会を行っており、ぶらっと城下町の参加者の多くも、城郭の中で発見されることの珍しい温泉遺構の可能性のある敷石を見学した。

・「青空教室」（小中学生編、大人編、マニア編）

7月末から8月末にかけての夏休み期間に合計10回の小中学生編を、8月2日から12月2日までの毎月2日に大人編を、そして9月15日と11月15日の合計2回のマニア編をそれぞれ実施した。

小中学生編と大人編は、全国的にも稀有なほど大規模に残る文禄慶長期の野面積み石垣がもつ文化的価値について、現地を歩きながら解説するものである。石積み体験キット「石垣つめる君」を併せて活用することで楽しみながら石垣の構造や、石積みの伝統技術について学習する機会となった。マニア編は石垣についての解説だけでなく、江戸時代初期・中期・後期の絵図と現地の遺構を見比べて歩き、石垣の拡張や江戸期の修復理由などについて意見交換を交

えつつ学ぶ機会となった。

・「甲府城饗宴（和楽器演奏会）」

11月15日（土）に鉄門2階にて、第一部と第二部の2回、実施した。県立大学箏曲部が演奏を担当し、復元された鉄門のお城らしい雰囲気の中で箏、尺八、三絃の演奏を合計約90人が楽しんだ。復元整備された鉄門の中での和楽器演奏を通して、甲府城跡に親しみをもってもらうことを目的としたイベントであるが、演奏の合間に甲府城に関するクイズを挿入することで、甲府城の歴史や石垣の特徴などを学ぶ機会としても活用することができた。

・「甲府城で鬼ごっこ」

12月6日（土）に、稲荷曲輪にて小学生を対象に実施した。公園整備事業にともなって綺麗で過ごしやすくなり、また稲荷櫓などの復元整備が進んだ甲府城跡の中で鬼ごっこ大会を実施することで、甲府城跡に親しみをもってもらうことが開催の主な目的である。

当日は平安時代にまで起源が遡り、明治期の古写真にも残る「ことところ」という鬼ごっこを体験した他、手なぎ鬼や陣取り合戦方式のもの等、様々な形式の鬼ごっこを参加者が楽しんだ。また、開始前に甲府城の歴史や非常に古い時期の石垣が甲府城跡に残っていることを解説し、会場が貴重な文化財の残る県指定史跡であることの周知を図った。

・視察、見学会

視察や見学会は、甲府城跡の歴史や石垣の価値を中心に、整備と活用事業の主旨を解説し、史跡整備への理解促進に繋げた。大学等調査研究機関や城郭または史跡整備を担当する埼玉県、愛知県、石川県、佐賀県の職員、甲府商工会議所の視察や情報交流の機会を得た。



ぶらっと城下町



青空教室（小中学生編）



青空教室（大人編）



甲府城饗宴（和楽器演奏会）



甲府城で鬼ごっこ



他県の史跡整備担当職員による視察

11 遺跡データ管理(GIS)

2014年度の遺跡管理システム(Geographic Information System)に登録した遺跡の発見や範囲の変更については15件であった。内訳は、遺跡の発見(2.大月市 大石遺跡、3.大月市 花咲用水関連遺跡、5.韮崎市 夏目石水遺跡、7.北杜市 蔵原東久保第二遺跡、9.南アルプス市 十五所立石遺跡、14.山梨市 笛吹川堤防遺跡群、15.山梨市 窪八幡神社旧社地跡)7件と遺跡範囲の変更修正(1.中央市 上窪遺跡、4.山梨市 雲林遺跡、6.山梨市 日下部遺跡、8.南アルプス市 下宮地遺跡、10.山梨市 柿木田遺跡、11.笛吹市 身洗沢遺跡、12.山梨市 屋敷遺跡、13.山梨市 浄居寺城跡)8件である。

12 報告書PDF化(遺跡資料リポジトリ)

昨年度第1集から第287集まで実施し、引き続き平成26年度は、第292集、第293集、第297、第298集の4冊を山梨県遺跡資料リポジトリへPDFデータを提供した。

13 埋蔵文化財センター峡北収蔵庫遺跡まなび館

平成24年度から3ヶ年事業の国庫補助事業を取り入れた遺物台帳整備や、発掘調査報告書などの図書の搬入整理を行った。平成26年度現在で遺物の合計は12,455箱を台帳に記載し、図書については17,930冊を台帳作成した。

14 寄贈・購入図書

図書は、毎年度約2,000～3,000冊が寄贈・購入されている。寄贈図書の内容は、全国の都道府県・市町村教育委員会から送付される発掘調査報告書、年報、研究紀要、博物館・資料館等の企画展図録などである。その他にも業務に関する考古学や歴史学の専門書、学術雑誌を購入している。

2014年度(平成26年度)は2,776冊の図書を登録し、専門書・学術雑誌の購入は72冊である。総登録数約103,976冊に大塚文庫約11,000冊を加えると約114,976冊が収蔵されていることになる。登録された図書データは、図書データベース(マイクロソフト社データベースアクセス)で管理し、蔵書の検索もできるようにしている。年々増加していく図書であるが、収蔵スペースが不足し、2008年度(平成20年度)に書棚設置場所を設けて書棚6棚を増設し、2011年度(平成23年度)には5棚増設した。さらに、2013年度(平成25年度)からは、使用頻度が低いと思われる図書を峡北収蔵庫遺跡まなび館へ搬出・整理(台帳作成)している。依然として閲覧スペースを含めた収蔵スペースの確保・整備が大きな課題となっている。

第II章 各遺跡の発掘調査等概要

1 記録保存のための発掘調査

1-1 甲府城跡(委員会室棟第3次)

所在地	甲府市丸の内一丁目6-1
事業名	県庁舎耐震化等整備事業
調査期間	2014年4月14日～6月30日
調査面積	約300㎡
担当者	正木季洋・塩谷風季



甲府城跡(委員会室棟第3次)位置図

本事業は、県庁舎耐震化等整備事業委員会室棟建設工事に伴う発掘調査であり、調査地点は山梨県庁の山梨県議会議事堂東側、甲府城内においては楽屋曲輪東端の楽屋曲輪御門北東部に位置し、江戸時代の絵図では「湯」・「水湯」・「湯出ル」・「入湯場」などの記載とともに方形ないしは円形の遺構の記載がある地点である。今回の発掘調査は平成25年度の発掘調査(以下「2次調査」)により確認された温泉関連施設と推定される敷石遺構の広がり等を確認することを目的とし、2次調査区周囲の追加調査を実施することとなった。また、同年4月7日に実施した委員会室棟建設範囲北東部の確認調査により、石組水路遺構が確認されたことにより、北東部の調査も合わせて実施した。

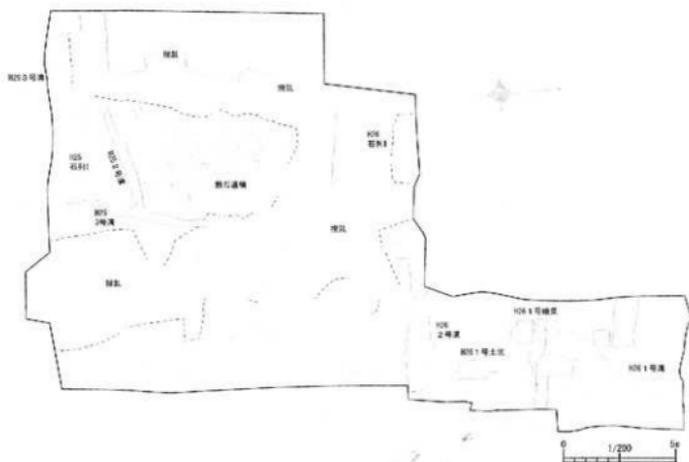
2次調査により確認した敷石遺構の周囲は、旧委員会室棟の基礎やコンクリート埋設管等によりすでに掘削されており、敷石遺構に接続する遺構は確認されなかったが、蛍光X線分析による敷石遺構内と遺構外の土壌の成分を比較によると、遺構内の土壌は遺構外より硫黄の割合が高い状況がみとめられ、この硫黄は、温泉由来のものであるか自然由来のものであるか不明な状況があるが、絵図・文献・同時期の温泉関連遺構の調査事例との比較とあわせて、敷石遺構は、「湯」・「温泉」に関連した遺構である可能性が高いといえる。

4月7日の確認調査により発見した石組水路遺構(H26-1号溝)は、北から南西方向に屈曲しており、東側は鉄塔基礎により破壊されている状況を確認した。H26-1号溝からは時期を特定する瓦等の出土品はなかったが、石材に加工された状況から江戸時代前期に構築されたものと考えられる。また、溝中央部では、水路上に蓋状の石が置かれており、土層の堆積状況などとあわせると、暗渠であった可能性が高い。H26-1号溝周辺では、明治期以降に構築された暗渠(H26-1号暗渠)や土管排水遺構などが多数確認されており、江戸時代以降、調査区周辺から湧き出る水を処理するための施設が複数構築されていた状況がみられる。

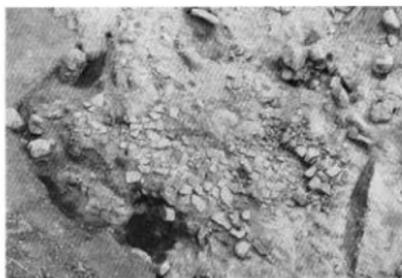
その他の遺構として、敷石遺構の北側では石列(H26-1号石列)、北東部では溝状遺構(H26-2号溝)、南西部では石組水路(H26-3号溝)が確認されており、出土遺物や層所から明治期以降に構築されたものと考えられる。このうちH26-2号溝は、南側を旧委員会室棟の基礎により破壊されていたが、溝内に植状の木を組み合わせた管を有しており、2次調査により確認されたH25-3号溝とつながっていたと思われる。

発掘調査作業員による掘削・記録作業は5月16日で終了し、5月26日～29日にはラジコンヘリコプターによる空中写真撮影および3次元測量を実施した。

なお、敷石遺構は委員会室棟の基礎構造を変更することにより、現地に埋設保存されることとなり、保存域を土のうにより区画し、遺構直上に寒冷紗を施設後、山砂にて保護層を設け、山砂内に「この下に文化財あり」と記載したPPシートを施設した。H26-1号溝は一部が基礎により破壊がおよぶことから、構築石にナンバーを付けた土で取り外し、調査区内の工事掘削による影響のない地点に埋設し、6月に実施された基礎建設のための掘削工事に際しては立会調査を実施した。



甲府城跡 委員会室棟第3次 全体図



礎石遺構



H26-1号溝



H26-2号溝



H26-3号溝

1-2 甲府城跡(本館-別館間渡り廊下)

所在地	甲府市丸の内一丁目6-1
事業名	県庁舎耐震化等整備事業
調査期間	2014年4月14日～6月30日
調査面積	約100㎡
担当者	正木季洋・御山亮済・塩谷風季



甲府城跡(本館-別館間渡り廊下)位置図

本事業は、県庁舎耐震化等整備事業別館改修工事(本館別館間渡り廊下建設)に伴う発掘調査であり、調査地点は山梨県庁別館西側、甲府城内においては楽屋曲輪の西端に位置する。今回の発掘調査は平成26年2月に実施した渡り廊下基礎撤去工事の立会調査により、埋蔵文化財が存在している可能性があり、また西側の平成23年度の駐輪場地点発掘調査において、地表下2m以下までは地山層が確認できないほど深くまで造成層であることがわかっていることから発掘調査を実施することとなった。

調査は、県庁内の通路確保の都合から、2区画(1区・2区)にわけて実施した。1区では東西方向のトレンチを3本設定し(1～3号トレンチ)、掘削後、土層観察を行ったところ、平成23年度駐輪場地点発掘調査区と同様に土塁の版築層と思われる造成土層を確認した。1・2号トレンチでは土層中に東に向かって傾斜する層が確認されており、古い段階の土塁の端部の可能性がある。造成層中からは江戸期の瓦がわずかに出土したほか、平安時代の土師器片も出土している。また、1区南側は造成層上に水道管などの後世の攪乱を受けているもの、集石や瓦溜まりが確認されており、検出土層や出土遺物から明治期以降に構築されたと考えられる。

1区南側、本館北側の2区では表土除去後、4号トレンチを設定し、掘削を行ったが、電気配管や雨水排水管などにより攪乱を受けており、1区で確認された造成層は確認されなかった。



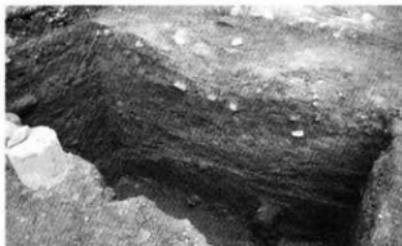
1区 全景



1区 南側



1号トレンチ



2号トレンチ

1-3 甲府城跡(県庁構内確認調査)

所在地	甲府市丸の内一丁目6-1
事業名	県庁舎耐震化等整備事業
調査期間	2014年4月7日(委員会室棟改築工事) 2014年10月27日～11月4日、12月20・21日 (県庁構内一工区外構整備工事)
調査面積	約15㎡(委員会室棟改築工事) 約74㎡(県庁構内一工区外構整備工事)
担当者	正木季洋・塩谷風季(委員会室棟改築工事) 正木季洋・柴田亮平(県庁構内一工区外構整備工事)



甲府城跡(県庁構内確認調査)位置図

本事業は、県庁舎耐震化等整備事業委員会室棟改築工事および県庁構内一工区外構工事に伴う確認調査であり、地下遺構の残存状況を確認し、事業に必要なデータの収集と提示を行うことを目的としている。

《1. 委員会室棟改築工事》

調査地点は委員会室棟建設予定範囲の北東部、旧鉄塔西側にあたり、甲府城内においては楽屋曲輪東端の楽屋曲輪御門北東部に位置する。調査は調査対象地内にトレンチを3箇所(1～3T)設定し、重機による掘削後、人力により遺構確認と土層観察を行った。

調査の結果、1Tの地表下約85cmの地点において東西方向にのびる石組水路を確認し、1T西端以西は旧鉄塔建設時に擾乱を受けている状況を確認した。

この結果をうけ、4月17日より委員会室棟第3次発掘調査を実施している。

《2. 県庁構内一工区外構整備工事》

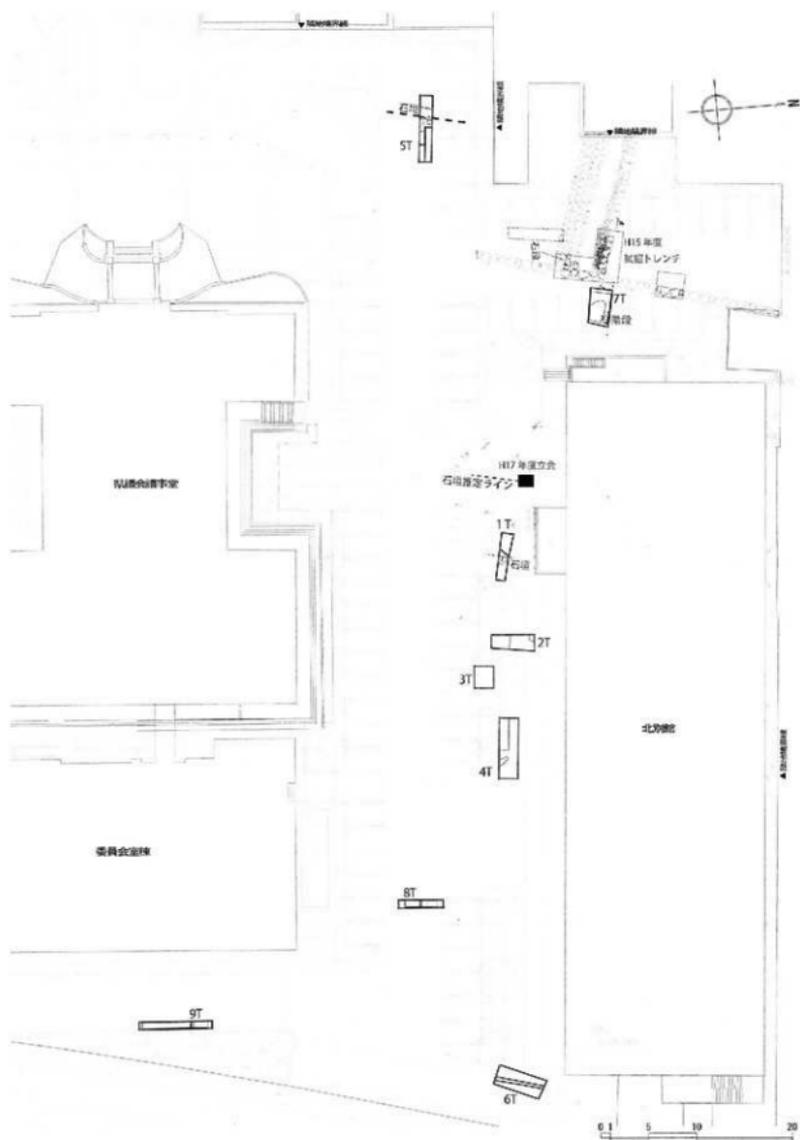
調査地点は県庁北別館周辺、甲府城内においては柳御門周辺および、楽屋曲輪北部と清水曲輪・屋形曲輪南部に位置する。調査は対象地内にトレンチを9箇所(1～9T)設定し、重機による掘削後、人力により遺構確認と土層観察を行った。

調査の結果、楽屋曲輪-清水曲輪間の仕切門脇の石垣根石(1T)や柳御門周辺の石垣根石(5T)、階段(7T)、石垣裏栗・土塁(2・3T)などが確認されている。

今回の確認調査とこれまでの調査記録から、県庁構内一工区外構整備工事対象範囲の甲府城跡に関する遺構は、工事実施にあたり、十分な保護期が確保されることを確認し、現地に埋設保存されることとなっている。

平成26年度 甲府城跡県庁構内確認調査一覧

事業名	No	調査時期	調査地点	歴史的状況	調査面積(㎡)	掘削深さ(m)	遺構検出深さ(m)	検出遺構	検出遺物	備考
委員会室棟改築工事	1T	平成26年4月7日	委員会室棟北西	楽屋曲輪	3.5	0.05	0.05	石組水路	瓦	
	2T	平成26年4月7日	委員会室棟北西	楽屋曲輪	8.4	1.1	—	なし	瓦	
	3T	平成26年4月7日	委員会室棟北西	楽屋曲輪	3.2	1.5	—	なし	瓦	旧鉄塔建設時の擾乱を受ける。
県庁構内一工区外構整備工事	1T	平成26年10月27・28日	外構1-1エリア	楽屋曲輪-清水曲輪間仕切御門	3.3	1.1	0.05	門脇石垣、瓦筒	瓦	
	2T	平成26年10月27日	外構1-1エリア	屋形曲輪御門	7.2	1.4	0.8	土塁	瓦	
	3T	平成26年10月28日	外構1-2エリア	屋形曲輪-楽屋曲輪間石垣	4.6	1.1	0.9	表栗	瓦	
	4T	平成26年10月28日	外構1-1エリア	屋形曲輪	12.8	1.3	0.9	土塁	瓦	
	5T	平成26年10月30・31日	外構1-4エリア	柳御門周辺	15.1	1.4	0.8～1	石垣、表栗、瓦筒	瓦	
	6T	平成26年11月11日	外構1-2エリア	屋形曲輪-楽屋曲輪間	10.7	0.45	—	なし	なし	明治時代以降に造成を受ける。
	7T	平成26年11月11日	外構1-3エリア	柳御門周辺	8.3	0.45	0.45	階段	瓦	
	8T	平成26年12月20日	外構1-2エリア	屋形曲輪	3.9	1.5	—	なし	なし	擾乱を受ける
	9T	平成26年12月21日	外構1-5エリア	月見橋下石垣	6.1	0.1～0.6	0.1	石垣根石の跡跡?	瓦片	



県庁構内一工区外構整備に伴う確認調査トレンチ配置図



委員会室棟確認調査1トレンチ



委員会室棟確認調査1トレンチ 石組水路



外構整備工事確認調査1トレンチ 石垣



外構整備工事確認調査3トレンチ 石垣裏栗



外構整備工事確認調査5トレンチ



外構整備工事確認調査5トレンチ 石垣



外構整備工事確認調査7トレンチ



外構整備工事確認調査7トレンチ 階段

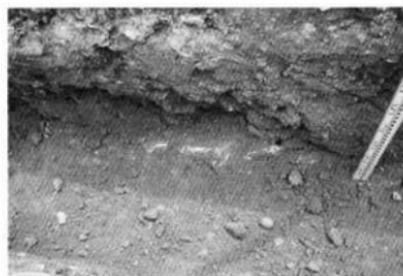
1-4 甲府城跡(県庁構内立会調査)

所在地	甲府市丸の内一丁目6-1
事業名	県庁舎耐震化等整備事業
調査期間	2014年4月9日～2015年3月30日
調査面積	約2,010㎡
担当者	正木季洋・柴田亮平・塩谷風季・長田隆志



甲府城跡(県庁構内立会調査)位置図

本事業は、県庁舎耐震化等整備事業(別館改修工事、県議会議事堂委員会室棟改築工事、県庁構内一工区外構整備工事、県庁構内二工区外構整備工事)に伴う立会調査であり、今年度は主に県庁別館および北別館周辺、甲府城内においては柳御門周辺・楽屋曲輪御殿・清水曲輪と屋形曲輪の南端部に該当する箇所での調査を実施した。調査の結果、楽屋曲輪御殿に関する礎石や石列、石組水路、土墨版築層、瓦溜りなどを確認した。礎石や石列、石組水路等の遺構は、協議の上すべて埋設保存とし、出土瓦は全て回収した。



(2)-2 別館改修電気設備工事立会(西門東)石列



(4)-1 別館改修機械設備工事 ガス管(別館東)



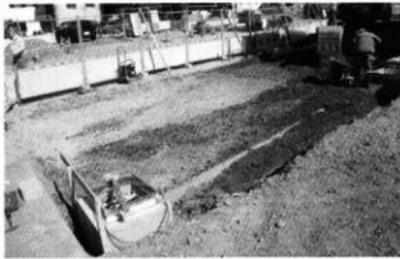
(7) 委員会室棟改築電気設備工事(委員会室棟南西)



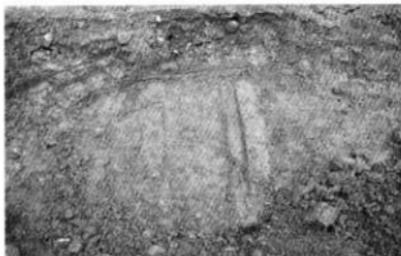
(8)-2 別館改修電気設備工事立会(別館北西)石列



(9)-9 一工区外構整備電気設備工事 (北別館南)



(9)-17 一工区外構整備工事 すきとり (議事堂北)



(11)-1 別館改修機械設備工事 (別館北西) 石組水路



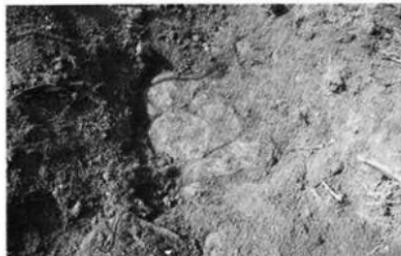
(11)-1 別館改修機械設備工事 (別館北西) 石列



(11)-4 別館改修機械設備工事 排水設備 (別館南西)



(11)-7 別館改修機械設備工事 (別館北東) 礎石



(15) 二工区外構整備植栽工事 (東門北緑地) 暗渠



(15) 二工区外構整備植栽工事 (東門北緑地) 追手門石垣

平成26年度県庁構内立会い一覧

№	事業名	工事内容	竣工時期	施工地点	実施担当者	新築/増築/改修/修繕/その他	坪数(㎡)	工期(日)	発注時期(月)	秋田建設	秋田建物	備考
(1)	別館改修電気設備工事	電気設備	平成25年4月9日	別館改修エ7	正木・塩江	電気設備	6	1	04	なし	なし	電灯は増設保存
(2)	別館改修電気設備工事	電気設備	平成25年4月12日	別館改修エ7	正木	電気設備	38	1	04	電灯・空調・換気装置	なし	電灯は増設保存
(3)	別館改修電気設備工事	電気設備	平成25年4月13・16・17・19日	別館改修(内7面)	正木	電気設備	30	09 ~ 12	04 ~ 09	なし	なし	電灯は増設保存
(4)	別館改修機械設備工事	電気設備	平成25年4月21日 ~ 21日	別館改修エ7	正木・塩江	電気設備	20	08	—	大層	なし	電灯・空調・換気装置
(5)	別館改修機械設備工事	電気設備	平成25年5月17日・18・29日・12月20日・平成27年1月19日	別館改修エ7	正木	電気設備	6	04 ~ 13	03	右側の取付の可能性	なし	増設保存
(6)	別館改修電気設備工事	電気設備	平成25年12月21日	別館改修エ7	正木	電気設備	40	08	03 ~ 02	右側の取付の可能性	なし	増設保存
(7)	別館改修機械設備工事	電気設備	平成25年8月19日	別館改修エ7	正木	電気設備	16	05	03	右側	なし	増設保存
(8)	別館改修電気設備工事	電気設備	平成25年8月20日	別館改修エ7	正木	電気設備	14	05	05	取付	なし	増設保存
(9)	別館改修電気設備工事	電気設備	平成25年9月2日・4日	別館改修エ7	長岡田	電気設備	11.7	05	03	丸廻り	なし	別館取組での取組工事
(10)	別館改修電気設備工事	電気設備	平成25年9月4日・5・10日	別館改修エ7	正木	電気設備	7	11	—	なし	なし	別館取組での取組工事
(11)	別館改修電気設備工事	電気設備	平成25年10月22日・23日・29日	別館改修エ7	正木	電気設備	100	04	—	なし	なし	増設保存
(12)	別館改修電気設備工事	電気設備	平成25年11月4日・7日・10日	別館改修エ7	正木	電気設備	49	07 ~ 13	06	右側・大層	なし	右館取組での取組工事
(13)	別館改修電気設備工事	電気設備	平成25年11月10日・11日	別館改修エ7	正木	電気設備	17	05 ~ 12	—	なし	なし	別館取組での取組工事
(14)	別館改修機械設備工事	電気設備	平成25年11月4・5・10日	別館改修エ7	伊田	電気設備	35	06 ~ 05	06	電灯・空調	なし	電灯は増設に保存
(15)	別館改修機械設備工事	電気設備	平成25年11月12日	別館改修エ7	正木	電気設備	37	03	—	なし	なし	電灯は増設に保存
(16)	別館改修電気設備工事	電気設備	平成25年11月21日	別館改修エ7	正木	電気設備	9	02 ~ 02	—	なし	なし	電灯は増設に保存
(17)	別館改修電気設備工事	電気設備	平成25年12月1日	別館改修エ7	正木	電気設備	6	01	—	なし	なし	別館取組での取組工事
(18)	別館改修電気設備工事	電気設備	平成25年11月21日・12月4日	別館改修エ7	正木	電気設備	15	09	—	なし	なし	別館取組での取組工事
(19)	別館改修電気設備工事	電気設備	平成25年11月21日・28日	別館改修エ7	正木	電気設備	20	02 ~ 02	—	なし	なし	別館取組での取組工事
(20)	別館改修電気設備工事	電気設備	平成25年12月11日・12日	別館改修エ7	正木	電気設備	36	06 ~ 10	06 ~ 07	電灯・空調	なし	増設保存
(21)	別館改修電気設備工事	電気設備	平成25年12月3・4日	別館改修エ7	正木	電気設備	17	08	04	—	なし	電灯・空調取組での取組工事
(22)	別館改修電気設備工事	電気設備	平成25年12月13・14・19 ~ 21日	別館改修エ7	正木・長岡田	電気設備	43	03 ~ 06	—	なし	なし	別館取組での取組工事
(23)	別館改修電気設備工事	電気設備	平成27年1月16日	別館改修エ7	正木	電気設備	7	05	—	なし	なし	別館取組での取組工事
(24)	別館改修電気設備工事	電気設備	平成27年1月21日・26日・29日・12月12日	別館改修エ7	正木・長岡田	電気設備	30	03 ~ 12	—	なし	なし	別館取組での取組工事
(25)	別館改修電気設備工事	電気設備	平成27年1月26日	別館改修エ7	長岡田	電気設備	60	04	—	なし	なし	別館取組での取組工事
(26)	別館改修電気設備工事	電気設備	平成27年2月21日	別館改修エ7	正木	電気設備	20	03	—	なし	なし	別館取組での取組工事
(27)	別館改修電気設備工事	電気設備	平成27年3月9日	別館改修エ7	正木	電気設備	11	03	—	なし	なし	別館取組での取組工事
(28)	別館改修電気設備工事	電気設備	平成27年2月12日	別館改修エ7	正木	電気設備	30	02 ~ 04	—	なし	なし	別館取組での取組工事
(29)	別館改修電気設備工事	電気設備	平成27年1月21日	別館改修エ7	長岡田	電気設備	6	03	—	なし	なし	別館取組での取組工事
(30)	別館改修電気設備工事	電気設備	平成27年1月26日・29日	別館改修エ7	長岡田	電気設備	12	02	—	なし	なし	別館取組での取組工事
(31)	別館改修電気設備工事	電気設備	平成27年2月10日	別館改修エ7	正木	電気設備	40	0 ~ 04	—	なし	なし	別館取組での取組工事

(9) 以下は別館

工事名	工事内容	調査期間	調査地点	調査方法	調査対象	調査項目	調査回数	調査期間	調査回数	調査項目	備考
(9) 上水外観調査	18 旧庁舎内・工区外観調査工事	平成27年2月7・14日	本館裏山	写真撮影	写真撮影	15	05	—	—	なし	継ぎ足込み工中の取崩工事
	19 旧庁舎内・工区外観調査工事	平成27年2月27日	外構1-5-4 (継ぎ足)	写真撮影	写真撮影	10	03	—	—	なし	継ぎ足中の取崩工事
	20 旧庁舎内・工区外観調査工事	平成27年3月11・12日	外構1-5-4 (北東角)	写真撮影	写真撮影	31	06~07	—	—	なし	継ぎ足・既設配管での取崩工事
	21 旧庁舎内・工区外観調査工事	平成27年3月16日	北東角	写真撮影	写真撮影・写影機	164	03	—	—	なし	継ぎ足・既設配管での取崩工事
	22 旧庁舎内・工区外観調査工事	平成27年3月16日	外構1-2 (北側面)	写真撮影	写真撮影・写影機	25	03	—	—	なし	継ぎ足・既設配管での取崩工事
	23 旧庁舎内・工区外観調査工事	平成27年3月13日	外構1-1	写真撮影	写真撮影・写影機	29	03	—	—	なし	継ぎ足中の取崩工事
	24 旧庁舎内・工区外観調査工事	平成27年3月23日	外構1-1 (北西角)	写真撮影	写真撮影・写影機	26	03	—	—	なし	継ぎ足中の取崩工事
(10) 防災新築築設工事	25 旧庁舎内・工区外観調査工事	平成27年3月27日	外構1.5.2 (北西角)	写真撮影	写真撮影・写影機	293	03	—	—	なし	継ぎ足・既設配管での取崩工事
	26 旧庁舎内・工区外観調査工事	平成27年3月27・31日	外構1.5.2 (北西角等集)	写真撮影	写真撮影	32	10	—	—	なし	継ぎ足中の取崩工事
	27 旧庁舎内・工区外観調査工事	平成27年3月30日	外構1.5.2	写真撮影	写真撮影	8	12	—	—	なし	継ぎ足中の取崩工事
	28 防災新築築設工事	平成28年12月1・9日	防災新築築設場	写真撮影	写真撮影の撮影	115	02・10	—	—	なし	既設配管での取崩工事
	29 防災新築築設工事	平成27年1月7・8・11・16日	防災新築工事	写真撮影	写真撮影	326	08~12	03~05	—	なし	石割・石積配管・既設埋込管
	30 防災新築築設工事	平成27年1月11・16日	防災新築工事	写真撮影	写真撮影	105	2	—	—	なし	既設配管での取崩工事
	31 防災新築築設工事	平成27年1月20日	防災新築工事	写真撮影	写真撮影	57	2	—	—	なし	既設配管での取崩工事
(11) 防災改修築設工事	32 防災改修築設工事	平成27年1月23・26・28日	防災新築工事	写真撮影	写真撮影	128	15	02	—	なし	既設配管での取崩工事
	33 防災改修築設工事	平成27年2月9・10日	防災新築工事	写真撮影	写真撮影	13	03~05	—	—	なし	既設配管での取崩工事
	34 防災改修築設工事	平成27年2月9・10日	防災新築工事	写真撮影	写真撮影	48	06~08	—	—	なし	既設配管での取崩工事
	35 防災改修築設工事	平成27年2月12日	防災新築工事	写真撮影	写真撮影	35	03	01	—	なし	既設埋込管
	36 防災改修築設工事	平成27年2月12日	防災新築工事	写真撮影	写真撮影	96	03	—	—	なし	既設埋込管
	37 防災改修築設工事	平成27年2月12・15・16日	防災新築工事	写真撮影	写真撮影	11	03~09	—	—	なし	既設埋込管での取崩工事
	38 防災改修築設工事	平成27年2月18日	防災新築工事	写真撮影	写真撮影	77	09	03	—	なし	既設埋込管での取崩工事
	39 防災改修築設工事	平成27年1月20日・2月3日	防災新築工事	写真撮影	写真撮影	100	03	—	—	なし	既設埋込管での取崩工事
	40 防災改修築設工事	平成27年2月27日・3月10日	外構工事	写真撮影	写真撮影	43	03~08	09	—	なし	石割・既設埋込管
	41 防災改修築設工事	平成27年3月1・5日	防災新築工事	写真撮影	写真撮影	15	03	—	—	なし	既設埋込管での取崩工事
	42 防災改修築設工事	平成27年3月9日	防災新築工事	写真撮影	写真撮影	20	03	—	—	なし	既設埋込管での取崩工事
	(12) 防災改修築設工事	平成27年3月18・20・25~27日	防災新築工事	写真撮影	写真撮影	110	—	—	013~01	—	なし

1-5 甲府城下町遺跡(中央分離帯地点)

所在地	甲府市丸の内一丁目2-9隣接地
事業名	甲府駅南口周辺修景計画事業
調査期間	2014年12月1日～12月5日
調査面積	30㎡
担当者	吉岡弘樹・浅川一郎



甲府城下町遺跡 位置図

調査地点は甲府駅南口にある三角形の中央分離帯(植栽帯)の南東部であり、甲府城西側の柳御門前に位置する。当該事業により当中央分離帯が撤去され道路に改修されるが、当地が周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城下町遺跡に該当することから、2014年8月20日に試掘調査をおこなった。その結果、江戸期と思われる面に約1.8m間隔で並ぶ土坑が3基確認された。当該事業が緊急を要することから、試掘調査の結果を受けて迅速、県土整備部、学術文化財課、埋蔵文化財センターによる協議がなされ、平成26年12月1日から12月5日までの期間をもって記録保存調査を実施した。

調査にあたっては、中央分離帯内であることから道路占有許可を山梨県知事より、道路使用許可を甲府警察署長より取得した。また、調査対象区域をガードフェンスで囲んだ上、シグナルチューブを設置して夜間に点灯させた。

調査は重機により表土を除去したのち、世界測地系座標による基準杭の設置を行った上で、人力による掘削、精査を行いながら遺構や土層堆積状況を確認・記録した。

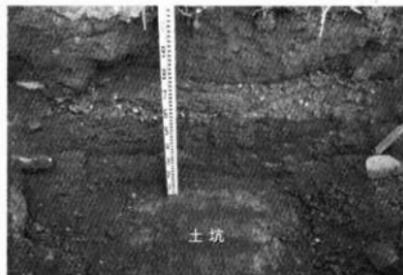
土層は上位より、植栽用盛り土(層厚50cm)、二層に分層できる砕石層(層厚70cm)があり、その直下の地表下120cmに江戸期の土層が認められた。江戸期の土層は黄褐色部分をパッチ状に含む灰褐色土上で亜角～亜円礫を多く含む。礫径は5cm未満が多いが、10～20cmの礫も散在している。調査区南部をさらに30cm程度深掘りしたところ灰褐色から暗灰色、さらに灰色へと変化していた。いずれの層も小亜角礫混じりであった。

遺構は土坑4基が検出された。4基の土坑は南北方向に1列に並びその間隔は1.8m(1間)であることから柱穴と考えられる。4基の柱穴のうち、北側の3基は試掘調査時に検出されたものである。なお、南側の2基は東部が調査区外になるため、完掘できなかった。柱穴の平面形は隅丸方形、円形、不定形とさまざまである。覆土は黒灰色で堅い。深度は15～20cmと浅い。深度が浅いことから柱穴の底部に近いところと考えられる。底部に近いところであることから平面形が異なっている可能性がある。調査区内において遺物は検出されなかった。

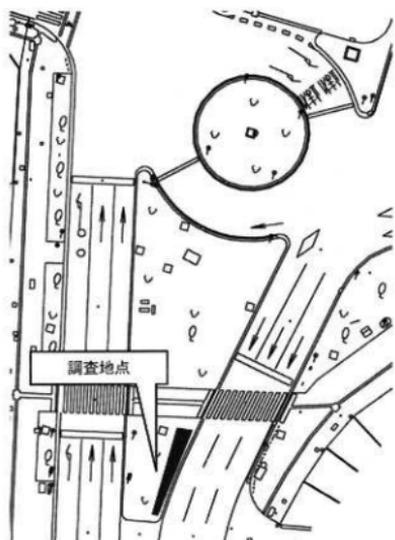
調査地点は甲府城の柳御門に隣接することから、この直列した柱穴は当地点に塀あるいは橋があった可能性を示唆する。これは当地点の性格や甲府城跡および甲府城下町遺跡の全体像を考える上での貴重な成果となるものとみて間違いない。今後は、来年度以降に図面整理や絵図による検討を加える予定である。



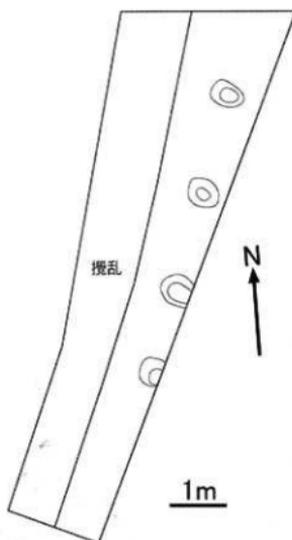
調査地全景(東から)



試掘時の遺構確認状況



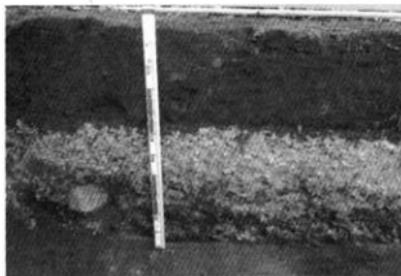
調査地点



全体図



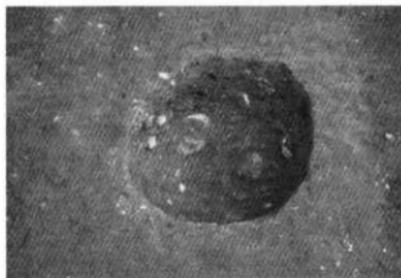
調査状況



土層堆積状況



完掘状況



完掘状況

1-6 大坪遺跡

所在地	山梨県甲府市桜井町634-3他
事業名	国道140号緊急道路整備改築事業
調査期間	2014年7月7日～8月8日
調査面積	200㎡
担当者	吉岡弘樹・浅川一郎・小田切崇



大坪遺跡 位置図

大坪遺跡は山梨県甲府市東部の桜井町～横根町に広がる奈良・平安時代の大遺跡である。標高は260m前後で、甲府盆地北縁に位置し、北には秩父山地が迫っている。当遺跡は1975年、1982年、1994年、2000年と発掘調査が行われてきた。中でも1982年の調査では、内面底部に「甲斐国山梨郡表門」と刻書された甲斐型土器が出土し、当地が「和名類聚抄」に掲載されている山梨郡表門郷に入ることが確認され、古代郷配置の研究に大きな影響を与えた。また、当遺跡の周辺では、北側に積石塚で有名な横根・桜井古墳群、東側には川田瓦窯跡と桜井畑遺跡、西側には奈良時代の小金銅仏が出土した東畑遺跡など古代から平安時代の遺跡が多数立地する。

本調査は国道140号緊急道路整備改築事業にともなうもので、平成25年8月に実施された試掘調査により遺構・遺物が検出されたため、記録保存調査をすることとなった。調査地点は十郎川西交差点北西隅であり、地形的には笛吹川扇状地と御坂山地から南流する十郎川土流扇状地の境界付近にあたる。現地表面の標高は約261.5mである。

調査は試掘の成果に基づいて遺構検出面直上まで重機により表土を除去し、その後は人力により掘り下げながら調査を進めた。調査区には1辺が5mの正方形のグリッドを設定した。遺構の調査は上層セクション図、エレベーション図、遺構平面図、遺構内レベリング等を行い、遺物については直径5cm以上のものについては位置データを計測した。測量法は遺り方測量で、グリッド杭に水糸を張り測量基準線とした。なお、調査範囲が狭小なため、調査区を北東部と南西部に分け、反転して調査をおこなった。

基本層序は上位より、表土層(約20cm)、暗黒褐色土層(10～20cm)、暗茶褐色土層(10～25cm)、淡茶褐色土層(10～25cm)、明茶褐色土層(遺物包含層:60cm)、橙褐色土層(10cm以上)となる。なお、層厚は北東部で薄く、南西部で厚い。

調査の結果、竪穴式住居4軒、溝状遺構2条、土坑2基と近代のぶどう栽培の痕跡である暗渠やぶどう棚の柱痕(ピット)が検出された。第1号住居跡は隅丸部分のみの検出で、甲斐型編年のⅨ・Ⅹ期に比定される甲斐型杯及び蓋が出土した。第2・3号住居跡は重複しており切合い関係は不明である。双方の住居跡から細片化した平安期の杯が出土したが詳細な時期を特定するのは難しい。第4号住居跡は第2号溝状遺構を切る形で一部分のみが検出され、平安後期の杯片が少量出土した。第1号溝状遺構は、全長約5.5m、幅約1m、深度10～20cmであり、今回の調査における最古の出土品である古墳時代須恵器大甕と長頸瓶の破片や多くの甲斐型土器片が出土した。本調査で出土した遺物の大半はこの第1号溝状遺構より出土したものであり、出土状況から破棄したものと考えられる。第2号溝状遺構は、全長約8m、幅1.2～1.5m、深度約20cmであり、遺物は出土しなかった。また、不規則に西側の壁付近に枕列がみられた。第1号土坑は楕円形で坑底は平底で壁はやや急傾斜を持って立ち上がっている。出土遺物はⅨ期に比定される杯や高台杯が出土している。第2号土坑は試掘調査時において検出されたもので、当区域の発掘調査実施の決め手となった土坑である。平面形は不整形円形を呈しており、坑底は平坦で壁はやや角度を持って立ち上がっていく。遺物は出土しなかった。

整理作業は2014年12月から2015年3月までの4ヶ月間に渡り実施し、2015年3月に報告書を刊行した。



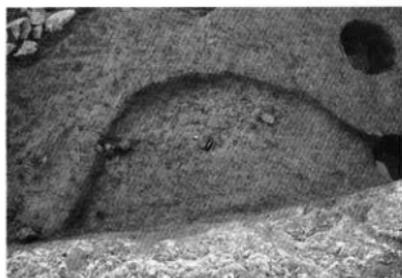
全体図



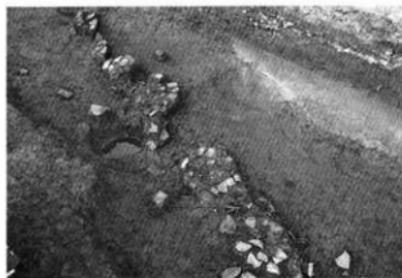
調査地域全景 (北東より)



北東区完掘状況



第1号縦穴住居遺物出土状況



第1号溝状遺構遺物出土状況



南西区完掘状況

1-7 身洗沢遺跡(笛吹スマートインターチェンジ建設事業：予備調査)

所在地	笛吹市八代町南地内
事業名	笛吹スマートインターチェンジ建設事業
調査期間	2014年7月3日～9月30日
調査面積	510㎡
担当者	篠原真史・網倉邦生・柴田亮平・新津茂・塩谷風季



身洗沢遺跡(予備調査)位置図

今回の調査は事業により影響を受ける埋蔵文化財包蔵地「身洗沢遺跡」の範囲確定を目的としている。大規模開発であるため、笛吹市建設部、教育委員会、中日本高速道路株式会社八王子支社、山梨県国土整備部、山梨県教育委員会学術文化財課、埋蔵文化財センターの協議により調査が実施された。予備調査は面的に調査した優先調査区域と、トレンチ調査に分けられる。

①優先調査区域

調査の結果、溝状遺構が3条確認された。また、この一帯は黒褐色土と灰色砂が互層状に堆積しており、幾度も水害に襲われていたことが明らかになった。

調査区の南西側は谷地形を呈し、調査中も常に水が湧き出ている状態であった。ここからは、灰色砂層を中心に、古墳時代後期の土器やホゾを穿った建築部材などの木製品が確認された。しかし、これらは流れ込みと考えられ、同一時期であるか不明である。調査区の北東側はやや高い地形になっており、水の湧き量も比較的少ない。ここからは1号溝状遺構が検出された。覆土には砂礫とシルトが堆積しており、そこから多量の土器が出土した。土器は平安時代の上師器・須恵器・灰胎陶器が大半である。これらは摩耗しており、流れ込んだ資料と推測される。そのため、遺構の年代は不詳である。また溝の掘込面より下の黒色土層から、弥生時代後期の土器片が多く出土し、赤彩の高坏や壺などが確認された。さらに北東側の調査区からは溝(5溝)を検出し、覆土から弥生時代後期の土器が出土した。今回の調査では確認できなかったが、集落に隣接した可能性も考えられる。

②トレンチ調査

(I) 高速道路南側

南側の現況地形は南に向かって高くなっている。土層は黒褐色土と灰色砂が互層状に堆積しているが、細かい谷が入り込んでいるため、距離数mの隣り合うトレンチで土層が大きく異なっていた。

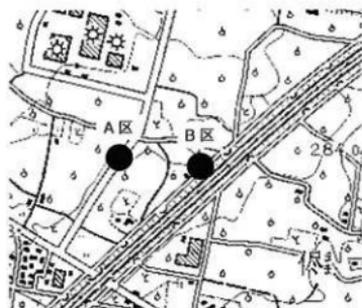
北側の側道沿いからは黒褐色土層から遺物が出土した。トレンチ21では溝状遺構が検出されており、その覆土からは弥生時代後期の土器が確認されている。トレンチ19からは深さの異なった土層より遺物が出土した。下層からは出土した土器は弥生時代中期の可能性が考えられる。またトレンチ26からも複数の土層から遺物が出土した。以上のことから、側道沿いを含む北東側(トレンチ18～29・42・43)について、本調査対象範囲と判断した。なお、この箇所は複数の時期の遺物が確認されている層があり、2面の文化層を持つと判断した。南西側の箇所からは遺物、遺構は確認できなかった。そのため、この一帯(トレンチ30～41)について、本調査対象範囲から外すと判断した。

(II) 高速道路北側

高速道路の北側の引き込み線箇所(トレンチ6～17、44～49)は、安定した堆積状況が確認されたが、遺構・遺物は確認できなかった。そのため、この一帯について本調査対象範囲から外すと判断した。北側の側道幅員箇所(トレンチ1～5)からは黒色土層から遺物(弥生時代後期の土器)が出土した。この範囲は1989年に行われた調査箇所と近接しており、出土遺物の時期を考慮すると、以前の調査で確認された遺跡の続きと判断した。これらを考慮して、この一帯について本調査対象範囲と判断した。

1-8 身洗沢遺跡(笛吹スマートインターチェンジ建設事業：本調査)

所在地	笛吹市八代町南地区
事業名	笛吹スマートインターチェンジ建設事業
調査期間	2014年12月16日～2015年1月30日
調査面積	532㎡(A区：381㎡、B区151㎡)
担当者	篠原真史・網倉邦生・柴田亮平・塩谷風季



身洗沢遺跡(本調査)位置図

身洗沢遺跡は、笛吹スマートインターチェンジ建設事業に関わり、2014年7月3日から9月30日に累層蔵文化財センターが予備調査をおこなった結果、施工範囲内における調査対象面積が確定した。本調査は県道313号沿いであるA区と中央自動車道の側道(北側)沿いであるB区、中央自動車道より南側のC区に分かれる。今年度は、A・B区を対象に本調査を実施した。

発掘調査によって、弥生時代後期の遺構・遺物が主体となって検出された。以下に調査成果を報告する。

A区の調査地点2と5からは、焼土の純層が検出された(焼土集中1・2)が、焼土層の厚さは非常に薄い。焼土集中1は、黒色土層の上層、焼土集中2は、黒色土層と黄灰色細砂層の間から確認された。黒色土層からは弥生時代後期の土器が主体的に含まれ、焼土集中1の周囲からは弥生時代後期の個体資料が出土しているため、焼土集中は該期の遺構と判断される。また、調査地点2からは、下端が平坦に加工された木柱が3基確認された。木柱は1m感覚で並んでおり、建物に伴う柱痕とも考えられるが、伴出物がないため、時代は不詳である。

B区は、予備調査と隣接するB-1区と道路を挟んだB-2区に分けられる。B-1区は、東から西に向かって緩やかに下っており、その途中で傾斜を横切る形で3条の溝状遺構を検出した、1号溝状遺構は、断面形状が漏斗状で中央部分が急激に落ちている。覆上は砂礫とシルトが堆積しており、砂礫層の中には、摩耗した平安時代の土器片(土師器・須恵器・灰軸陶器)が含まれている。構築した遺物の大半は平安時代に属するが、底に近い場所では古墳時代の土器がわずかに確認されており、遺構の出土時期は古墳時代まで遡る可能性がある。残り2条も1号溝状遺構と同様の方向へ伸びているが、検出面はより下層であり深さ1.0m程である。断面は皿状である。遺物はほとんど確認できなかったが、覆上は後述する弥生時代後期の土器の包含層であり、該期の遺構と推定される。1号溝状遺構の北東側には、深さ1.0m程の黒褐色シルト層から弥生時代後期の土器が出土しており、壺・甕・台付甕・高坏などが確認された。

今回の調査ではA・B区の双方で弥生時代後期の土器が出土しており、当時の生活域が広範囲に広がっていたことが明らかになった。次年度に調査予定のC区(高連道路南側)からも該期の資料が出土すると予想されており、今回の成果はこの地域の生活を明らかにする上で重要な資料となろう。



身洗沢遺跡B区 全景



身洗沢遺跡B区 6号溝状遺構

平成26年度 身洗沢遺跡



1-9 堂地遺跡

所在地	山梨県大月市大月町花咲地区内
事業名	国道20号大月バイパス改築事業
調査期間	2014年5月26日～12月26日
調査面積	約940㎡
担当者	田口明子・篠原真史・加々美結実

本遺跡は大月市南部、桂川左岸の河岸段丘上に位置する。遺跡の西側には標高約463mのむすび山があり、遺跡はそのふもとに立地する。周辺は現在、近年の宅地造成に伴う盛り土により平坦面になっているが、宅地造成以前は桂川へ向かってゆるやかに傾斜していた。調査区の標高は約376mである。

調査は1～4区に分けて実施した。その結果、現地表から約0.5～1.5m下のスコリアを多く含む黒褐色土層(層厚約30cm)と、その下層である現地表から約1.5～1.8m下のスコリアを少量含む黒褐色土層(層厚約20cm)より縄文時代前期、中期の土器片、打製石斧等の石器が出土した。遺構確認面は、スコリアを少量含む黒褐色土層の下で、3区と4区で縄文時代の土坑をそれぞれ1基確認した。3区1号土坑は直径114cmの円形で、深さは60cmであった。覆土中より縄文時代前期の上器片が3点出土した。4区1号土坑は円形を呈し、直径101cm、深さ54cmであった。覆土中より縄文時代中期の土器片2点、凹み石1点、欠損した石皿が1点出土した。また、その他として2区と3区で縄文時代より新しい時代の風倒木痕をそれぞれ1基確認した。

今回の調査では住居跡は確認されなかったが、縄文時代前期・中期の遺物が偏り無く遺跡全体で出土していることから遺跡の周辺に集落が存在していた可能性が考えられる。



堂地遺跡 位置図



堂地遺跡遠景(東から)

1-10 花咲用水関連遺跡

所在地	山梨県大月市大月町花咲地区内
事業名	国道20号大月バイパス改築事業
調査期間	2014年7月14日～8月14日
調査面積	約255㎡
担当者	田口明子・篠原真史・加々美結実

遺跡の所在する花咲地区は、笹子峠・清八山を水源とする笹子川が、富士五湖の一つである山中湖を水源とする桂川へと合流する地点に当たる。花咲用水関連遺跡はこの笹子川から南へ300mほどの山裾に立地しており、調査区の北端をJR中央線の線路が東西に延びている。調査区の標高は約370mである。

調査区内には、遺跡の西方約3kmにて笹子川より取水する「花咲水路」（地図上での名称）から分岐した水路が南北方向に2本流れている。そのうちの東側を流れる水路の両脇にある平地にそれぞれトレンチを設置して調査を進めた。

調査の結果、水路西側に設置したトレンチについては現地表下2m以下まで盛り土が堆積していた。盛り土中からは石臼2点の他、近代以降の陶磁器片が出土した。水路東側の平地に設置したトレンチからは、現地表面下90cmの近世の面より、礎石とみられる石が4点と木柱根1点が南北に一列に並んだ状態で確認された。礎石は南から半間（約90cm）、1間（約180cm）、半間の間隔で並んでいた。また木柱根が発見された場所の近くからは近世の陶器の蓋が出土した。この礎石と木柱根は性格不明ながら水路脇にて確認されたため水路との関連が考えられる。



花咲用水関連遺跡 位置図



花咲用水関連遺跡全景（上が北）



礎石・木柱根出土状況（南東から）

1-11 大石遺跡

所在地	山梨県大月市大月町花咲地区内
事業名	国道20号大月バイパス改築事業
調査期間	2015年1月6日～3月31日
調査面積	約325㎡
担当者	田口明子・篠原真史・加々美祐実

本遺跡は大月市南部、高川山からむすび山へとつづく尾根の北麓に立地している。調査対象地は近年まで水田として土地利用されており、現在は平坦面となっているが、旧地形は、南（山側）から北へ向かって傾斜している。また、遺跡の300mほど北側では筏子川が東流している。調査区の標高は約370mである。

調査は、H26年度からH27年度にかけて継続して実施する予定となっており、今年度は対象となる区域3,280㎡のうち約750㎡について重機による表土はぎを実施し、そのうちの約325㎡について人力にて掘削・精査を行った。

調査の結果、現地表から約2.5m下の地点で遺物包含層を確認した。包含層中に縄文時代早期末、弥生時代中期、古代の遺物が混在している。今回調査を行った約325㎡においては東側の方が遺物の出土量が多い傾向がみられる。包含層の下層では砂礫層の堆積が確認された。今年度の調査では遺構は確認されなかったが、風倒木痕が1基確認された。



大石遺跡 位置図



調査風景



遺物出土状況

1-12 谷村城

所在地	都留市中央二丁目1-1
事業名	甲府地方家庭裁判所都留支部新庁舎建設事業
調査期間	2014年8月4日～12月3日
調査面積	約2381㎡(約527㎡:第1～3面, 800㎡:第4面)
担当者	網倉邦生・塩谷風季



谷村城 位置図

谷村城は甲府地方家庭裁判所都留支部の敷地内に位置する。遺跡の周囲は国道139号線沿いに市街地が広がっており、西側には勝山城跡(中世・近世、城館跡)や城の腰遺跡(弥生時代、散布地)、東側には谷村の烽火台(中世、城館跡)がある。

今回の調査は、甲府地方家庭裁判所都留支部新庁舎建設事業に伴う発掘調査である。平成21年度に都留市教育委員会が裁判所の敷地内で試掘調査を行い、近世の遺構・遺物を検出したため、本調査が実施されることになった。調査に先立ち実施した、平成26年6月30日の現地協議(東京高等裁判所、学術文化財課、埋蔵文化財センターが参加)により、調査範囲などを相互に確認した。発掘調査は、平成26年8月4日から開始し、主に4つの遺構面が検出された。(第3面の下において遺構面(第3面下)が確認されたが、範囲は限定的であった。)

第1面は、地表下約0.5mに位置し、石列遺構1基、敬石遺構1基、通路状遺構1基、水路1基、礫集中2基、土坑1基、溝状遺構2基、瓦溜3基が検出された。伴出した遺物から、第1面は近代に比定される。第2面は、地表下約0.7mに位置し、道路状遺構1基、土坑14基、焼土集中5基、瓦溜5基が検出された。伴出した遺物から、第2面は近世・近代に比定される。第3面は、地表下約1.0mに位置し、石列遺構1基、礫集中3基、土坑43基、溝状遺構7基、焼土集中1基、炭化物集中1基、瓦溜1基が検出された。伴出した遺物から、第3面は中世、近世に比定される。第3面下は、地表下約1.5mに位置し、礫集中1基、土坑4基、溝状遺構2基が検出された。伴出した遺物から、第3面下は中世、近世に比定される。第4面は、地表下約1.8mに位置し、土坑88基、溝状遺構8基、炭化物集中1基が検出された。伴出した遺物から、第4面は平安時代、中世、近世に比定される。

第1面で検出された1号石列遺構は、緑色凝灰岩の切石を南西から北東方向に7列敷き、その両側に溶岩の切石を埋設している。この形状の石敷きは、大正時代の写真にも見られることから、遺構は該期に使用されていたと考えられる。第2面の道路状遺構は、周囲の地盤より高くなっており、表面が硬化している。また、大量の瓦が投棄された瓦溜が検出されているが、ガラス瓶なども含まれていることから、近代に比定される。第3面の3号溝状遺構は平坦面を内側にに向けた礫が向きあう様に並べられており、その内側に砂礫層が堆積しており、水路として用いられたと考えられる。7号溝状遺構も砂礫層を覆土に含んでいるものの、平面形状は不連続であることから、一段階高い水路である可能性がある。16号土坑は建物に伴う穴蔵(地下室)と考えられる遺構である。遺構底面からは炭化種実が出土したことから、食物の備蓄庫としての機能が想定される。遺構の覆土からはサザエやシジミなどの貝や動物骨などが出土しており、穴蔵として使用を終えた後に、食物残渣を投棄するための穴として用いられ、埋没したと考えられる。第4面は調査区西側を中心として南北方向に走向する猿橋溶岩が分布している。溶岩の堆積が厚くない東側に遺構が構築されている。88号、113号、115号、125号、130号、154号土坑の底面からは礫が出土しており、礎石を伴う土坑である可能性を有しているが、礫の高さは均一ではない。

今回の調査によって、近世から近代に至る段階で盛土造成がされているため、近世の遺構面が保存されていることや猿橋溶岩の周囲に平安時代、中世の遺構が構築されていることが確認でき、遺構は検出されなかったものの、縄文時代の遺物も出土した。検出された複数の時代の遺構は、遺跡外に広がっていることが予想されることから、周辺地域の開発に際しては試掘調査を行わなければならない。また、甲府地方家庭裁判所都留支部の敷地内の開発行為については、立会調査を含めた対応が必要である。



遺跡全景：中央が調査地点、奥は勝山城



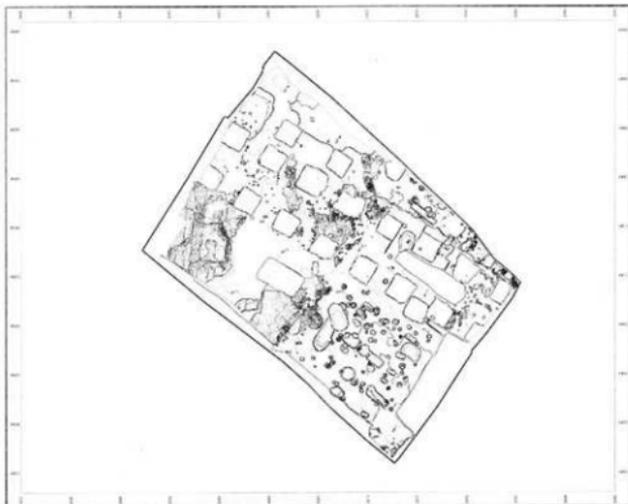
第1面 1号石列遺構



第3面 16号土坑(穴蔵)



第3面 3号溝状遺構(水路)



谷村城第4面平面図

2 整備事業に伴う調査

2-1 県指定史跡甲府城跡石垣整備事業

所在地	甲府市丸の内一丁目地内
事業名	舞鶴城公園石垣復元補修工事
調査期間	2014年4月1日～2015年3月31日
対象面積	308㎡
担当者	宮里学・正木季洋・久保田健太郎



甲府城跡は、戦国時代末期の文禄慶長期に築城された城郭である。1873年の廃城以降、中央線の敷設等により城郭の規模が縮小されたが、城内には築城期の野面積みの石垣が良好に残っており、1968年には県指定史跡となった。県土整備部による舞鶴城公園整備事業にともない、1990年から石垣の整備を行っている。1990年から2004年にかけては石垣の解体と積み直しによる改修工事等、2005年からは、詰石による補強等を中心とした石垣補修工事を実施してきた。

2014年度は、坂下門跡周辺石垣、銅門跡南面石垣、天守台穴蔵入口南面石垣の3地点を施工対象とし、県指定史跡甲府城跡調査検討委員の指導を得て実施した。作業は、事前測量の跡、仮設足場を設置し、番付、事前写真記録、石垣清掃、施工前調査、施工方法の検討、施工、施工後の確認、記録を教委監督員が常駐のうえ実施した。

事前調査成果

実施した3地点の石垣は、いずれも1590年代初頭に構築された甲府城築城期の石垣である。使用されている石材は安山岩で、特に坂下門跡周辺石垣においては、巨石が用いられる傾向がみられる。幅約12cmの四寸欠穴によって粗割りされたものもあるが、大半は野面積みである。また、坂下門跡周辺石垣や銅門跡南面石垣では、築石のスパリ形状が顕著であったため、詰石の弛みや欠落が顕著であった。

施工内容

(1) 詰石補修工事

弛んだ詰石の叩き締めや詰石欠落部分への新材詰石による補強、控えの短い詰石の控えの長い詰石への交換によって、築石相互の接点を増やし、石垣の安定化を図った。また、将来公園利用者に石片が剥離落下することがないように、築石表面の浮きの除去を行った。ただし、将来剥離することが懸念される範囲が大きく、それを除去すると、例えば石垣の出隅を構成する築石の形状が大きく変わってしまうなど、景観上の問題が生じる場合等においては、一旦剥離した浮き部分をポリマー系セメントモルタル(DKボンド)によって再度接着し、景観に変化が生じないように配慮した。

(2) 石垣改修工事

坂下門跡周辺石垣(東面石垣)において、南端入隅部分の天端付近で顕著な孕み出しがみられ、裏栗石の流出も著しいことから、該当部分の解体と積み直しによる改修工事を行うこととした。解体に伴う調査の結果、裏栗石層中に成長した木株や根が裏栗石層と築石を押し出したことや、裏栗石層が目詰まりを起こしていることが、変状の生じた主な要因であると推測された。控えが短く損傷が著しい築石2石を新材に交換した他は旧材によって積み直しを行い、施工を完了した。なお、当該地点は近代(明治初期)に修理履歴をもつ石垣である。

(3) 根石露出部分の保護

銅門跡南面石垣を清掃したところ、一部で根石の露出と、根石直下の岩盤の風化によってオーバーハングした根石が発見された。当該石垣は園路に面しているため、公園利用者の安全確保の観点から、石垣の前面に盛土するなどして岩盤の風化を抑制し、根石付近に土圧をかける必要があると判断された。県指定史跡甲府城跡調査検討委員会による検討の結果、銅門跡南面石垣の前面に土留石垣を構築し、植栽帯とすることで、根石直下の岩盤の風化抑制と根石への土圧をかける役割を負わせることに決定し、施工した。甲府城跡においては鉄門下東面石垣等において、岩着した根石を腰石垣によって保護しているとみられる歴史的な石垣の補強事例がみられることから、今回の施工方法は甲府城跡における根石保護方法として妥当なものであると判断された。



施工前測量風景



石材維持管理カード作成補助



施工方法の検討



施工風景



改修工事対象石垣(解体前)



改修工事対象石垣(積み直し後)



銅門跡南面石垣における根石露出状況

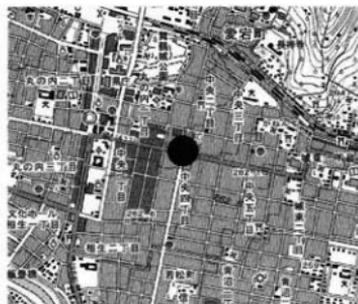


土留石垣による根石保護状況

3 県内分布調査

3-1 都市計画路「古府中環状浅原橋線」 街路事業に伴う試掘調査

所在地	甲府市中央二丁目12-19
調査期間	2014年6月4日
調査面積	約10㎡（調査対象面積約100㎡）
担当者	吉岡弘樹・浅川一郎

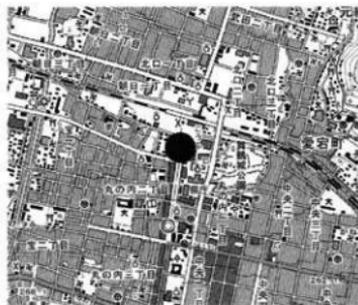


試掘調査 位置図

事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城下町遺跡内にあることから試掘調査を実施した。試掘地点は「NTT甲府支店西交差点」の北東隅であるが、平成25年度には同交差点北西隅の発掘調査がなされ、精錬遺構などが検出されている。試掘調査は重機により南北約1.3m、東西8m、深さ80cmのトレンチを掘削したのち人力により精査し、土層の観察と遺構・遺物の有無の確認を行った。トレンチの東側3分の2では約30cmのコンクリートの下に層厚約20cmの茶褐色粘質土層があり、その下に江戸期の遺構面が認められた。江戸期の遺構面において、トレンチ東端から約90cmの地点で南北方向の甲府上水の支線と考えられる木樋が検出された。木樋の上には径30cm以上の扁平な巨礫が蓋状に置かれていた。また、遺物として染付碗と鉄軸が施釉された陶器片が出土した。トレンチ西側3分の1はコンクリートの下は攪乱層であった。攪乱層からは溶けたガラス片などが検出されており甲府空襲の痕跡と考えられる。試掘調査の結果、遺構・遺物が検出されたため、発掘調査を実施する必要がある。

3-2 甲府駅南口周辺地域修景 計画事業に伴う試掘調査

所在地	甲府市丸の内一丁目2-9隣接地
調査期間	2014年8月20日・9月19日
調査面積	約29㎡（調査対象面積約800㎡）
担当者	吉岡弘樹・浅川一郎・小田切崇



試掘調査 位置図

当該事業により甲府駅南口にある円形の植栽帯とその南の三角形の植栽帯（中央分離帯）が解体され道路に改修されることとなったが、当地が周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城下町遺跡の範囲に該当することから試掘調査を実施した。

調査は地下埋設配管を避けて、円形地帯に1本、三角地帯に3本のトレンチを設定し、重機により江戸期と判断される層位まで掘り下げた後に人力により精査して遺構・遺物の確認を行った。土層堆積状況は、上位より盛り土、砕石、暗茶褐色土、江戸期と考えられる暗黄褐色粘質土が認められたが、トレンチ底までコンクリート基礎や攪乱が見られる部分も広く確認された。遺構として、甲府城御門に近い三角地帯南部東側で、深度1.2mの暗黄褐色粘質土面上に約1.8m間隔で並ぶ方形の土坑3基が検出された。遺物は検出されなかった。

試掘調査の結果、三角地帯南部東側の土坑が検出された周辺は発掘調査が必要である。その他の地点については遺構・遺物の検出はなく攪乱も激しいので発掘調査の必要は無いが、甲府城跡に隣接する地域であることから工事施工時には立会が必要と思われる。

3-3 新山梨環状道路東部区間 建設事業に伴う試掘調査

所在地 甲府市小曲町地内
調査期間 2014年8月25日～8月29日
調査面積 約478.2㎡ (対象面積約16,500㎡)
担当者 吉岡弘樹・浅川一郎・小田切崇

事業対象地は既存の埋蔵文化財包蔵地に指定されていないが、事業地域が広域にわたるため学術文化財課、新項状・西関東道路建設事務所、埋蔵文化財センターの協議に基づき埋蔵文化財の有無確認のための試掘調査をすることとした。

調査は、地下埋設の水管を避けてトレンチを14箇所に配置し、重機により自然堆積層と判断される層位まで掘削した後、人力により精査して土層の観察を実施した。

全てのトレンチにおいて約60cm～100cmの厚い表土および耕作土がみられた。この表土は泥炭などがブロック状に混入していることから圃場整備が行われた際の客土と考えられる。ごこまでの層位からは弥生時代後半から平安時代までの土器片が散見できたが客土に含まれていた遺物と解釈できる。客土の下位には砂層が見られることが多く、砂層の中に現代のゴミを含むトレンチもあった。砂層の下は自然堆積とみられる暗褐色の砂質土や粘質土が堆積していたが、この層位からは遺構・遺物は検出されなかった。

以上から、今回の試掘調査の範囲においては埋蔵文化財保護のための発掘調査は不要であり、工事に着手しても差し支えないと判断される。



試掘調査 位置図

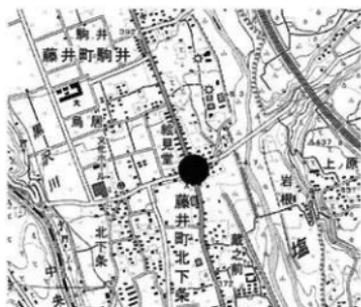
3-4 国道141号絵見堂交差点 改良事業に伴う試掘調査

所在地 荏崎市藤井町駒井・藤井町北下條地内
調査期間 2014年9月24日
調査面積 約24.75㎡ (対象面積約368㎡)
担当者 吉岡弘樹・浅川一郎・小田切崇

事業対象地が周知の埋蔵文化財包蔵地である宮ノ前第4遺跡・宮本遺跡の範囲内に該当するため、中北建設事務所、学術文化財課、埋蔵文化財センターによる協議に基づき埋蔵文化財の有無確認のための試掘調査を実施した。なお、平成25年度には、当事業における用地買収済み個所の試掘調査を実施している。

調査は3条のトレンチを重機によって掘削した後、人力により精査し、土層の観察と遺構・遺物の有無確認を行った。その結果、表土層の下に、角礫を多く含む茶褐色粘質土層や淡茶褐色粘質土層、橙褐色土層などの他に部分的に砕石層が見られた。その全ての層は他所から搬入転圧されたものである。遺構・遺物の検出はなかった。

当該地は、すでに土地の改変がなされており良好な土層堆積状況は観察できず、遺構・遺物も認められなかった。したがって、埋蔵文化財の発掘調査は不要であり、工事に着手しても差し支えないと判断される。



試掘調査 位置図

3-5 西関東連絡道路建設事業に伴う試掘調査

所在地 山梨県山梨市東地内
調査期間 平成27年3月11日
調査面積 14.5㎡ (調査対象面積310㎡)
担当者 御山亮済・加々美鮎実

調査地点は、荒神山の東麓に位置し、西側には笛吹川支流の西川が流れる。標高は約383.0mを測る。当地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地外であるが、周辺に丸山遺跡や下河原遺跡などが隣接することから、平成27年2月5日の現地協議に基づき、試掘調査を実施することとなった。調査では、幅1.0～1.2m、長さ5.5～7.5mの試掘溝を2箇所(1・2号トレンチ)設定し、重機を用いて掘削したのち、人力による遺構確認および土層観察を行った。調査対象地東端に設定した1号トレンチでは、地表面下30cmまで現代の耕作土(1号トレンチ1・2層)が堆積し、その下層には地表面下1.2mまで近現代の河川堆積とみられる砂礫層(1号トレンチ3～13層)を確認した。1号トレンチ14層において、ややしまりのある砂層が10cmほど堆積しており、旧河床と考えられる。調査対象地西端に設定した2号トレンチでは、地表面下20cmまで1号トレンチで確認された現代の耕作土(2号トレンチ1層)が堆積している。その下層では、地表面下2mまで畑地造成時の客土(2号トレンチ2～6層)が厚く堆積しており、1号トレンチとは様相が大きく異なる。1・2号トレンチとも、重機による深掘りを実施し、1号トレンチでは地表面下1.3m以下、2号トレンチでは地表面下2m以下に径70cm以上の巨礫を多く含む砂礫層が堆積していることを確認した。いずれの試掘溝においても遺構および遺物は確認されなかったため、保護措置は不要である旨を報告した。



試掘調査 位置図

3-6 県営住宅富浜団地駐車場整備事業に伴う試掘調査

所在地 大月市富浜町鳥沢3263-1
調査期間 2014年4月28日
調査面積 約18㎡ (対象面積約500㎡)
担当者 吉岡弘樹・浅川一郎

事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である南堀之内遺跡の範囲にあることから試掘調査を実施した。昭和54年には、当該地の北に隣接する2号棟の建設に伴う発掘調査が当埋蔵文化財センターによって実施され、平安時代の住居跡、土坑、集石遺構および遺物が検出されている。調査は、ガス管、水管、地下共同溝などの地下埋設避けて、平坦部に重機により2m×3mのトレンチを3本掘削して土層の観察や遺構、遺物の有無確認を行った。

第1トレンチでは、表土層(20cm)の下に、ややしまりの無い黄褐色土層があり、その下に粘性・しまりが強い茶褐色土層(10cm)が検出された。さらにその下方からは粘性・しまりに富み炭化粒子と焼土粒子を含む茶褐色土層が認められたが遺構・遺物の検出は無かった。第2トレンチと第3トレンチでは、表土層の下は造成による攪乱やコンクリート塊などが検出されたのみで良好な土層は観察できず、遺物も認められなかった。

試掘調査の結果、一部で良好な土層が見られたが遺構・遺物はなく、ほとんどの地域が造成により攪乱されてしまっている。以上から、発掘調査は不要であり、工事に着手しても差し支えないと判断される。



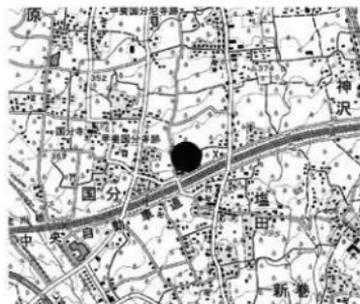
試掘調査 位置図

3-7 県営住宅一宮団地駐車場整備事業に伴う試掘調査

所在地 笛吹市一宮町塩田590-1
調査期間 2014年6月11日
調査面積 約10㎡(対象面積約980㎡)
担当者 吉岡弘樹・浅川一郎

事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である北中原遺跡に該当することから試掘調査を実施した。平成5～6年には当該地の北に隣接する一宮団地3号棟・4号棟建設に伴う発掘調査が当埋蔵文化財センターによって実施され、縄文・平安・中世の遺構・遺物が検出されている。

試掘調査は工事計画で掘削深度の深い南部に重機で2本のトレンチを掘削した後、人力により精査し遺構・遺物の有無確認と土層の観察を行った。第1トレンチは長さ3m、幅1.7m、深さ1.2mを掘削し、第2トレンチは長さ3m、幅1.5m、深さ1.2mを掘削した。両トレンチともほぼ同様の土層堆積状況であり、30cmの表土層の下は、部分的に埋設管や碎石層および攪乱層が見られたが、主に明茶褐色土を基質とする垂円礫の巨礫層や薄黄褐色砂礫層であった。これらの礫層や砂礫層は金川の扇状地堆積物である。両トレンチとも遺物包含層に相当する土層はなく、遺構・遺物は検出されなかった。従って、埋蔵文化財の保護措置は不要であり、工事に着手しても差し支えないと判断される。



試掘調査 位置図

3-8 県営住宅八田団地駐車場整備事業に伴う試掘調査

所在地 南アルプス市徳永1690
調査期間 2014年10月1日
調査面積 約10.5㎡(対象面積約600㎡)
担当者 吉岡弘樹・浅川一郎

事業対象地が周知の埋蔵文化財包蔵地である坂の上総塚遺跡の範囲内にあることから、建築住宅課、管轄課、学術文化財課、埋蔵文化財センターの協議に基づき試掘調査を実施することとした。

試掘調査は工事計画で掘削深度の深い2号棟の南で東西2カ所にトレンチを設定し、重機により掘削の後、人力による精査を行い土層の観察を実施した。両トレンチとも長さ約3.5m、幅約1.5m・深度約1.2mを掘削した。土層は30cmの表土層とその下位の暗黄褐色土層が認められた。下位の暗黄褐色土層は非常に堅く、数cmの碎石が多数混入していることから、団地造成時に盛り土され強く転圧されたものであると考えられる。両トレンチからは遺構・遺物は検出されなかった。

試掘調査の結果、表土の下は深くまで建物造成時の堅く転圧された盛り土層のみで、良好な土層堆積は確認できなかった。遺構・遺物の検出もなかったことから埋蔵文化財の保護措置は不要であり、工事に着手しても差し支えないと判断される。



試掘調査 位置図

3-9 韮崎警察署穴山駐在所移転 新築事業に伴う試掘調査

所在地	韮崎市穴山町43162
調査期間	2014年6月9日
調査面積	約23㎡(対象面積約91㎡)
担当者	吉岡弘樹・浅川一郎

事業対象地が周知の埋蔵文化財蔵地である能見城跡の縁辺部にあたることや宿尻遺跡の隣接地であることから、学術文化財課、山梨県警察本部総務室、埋蔵文化財センターの協議に基づき試掘調査を実施することとした。

試掘調査は、重機により建物の建設予定位置に東西方向の2本のトレンチを掘削し、人力による精査を行い土層の観察を行った。第1トレンチは幅約1.5m、長さ11m、深さ1.2mを掘削した。表土下は所々で深くまで攪乱が見られた。良好な土層が観察された地点では、上位より茶褐色土層、黄褐色土層が確認でき、トレンチ西端では地表下1m以深に再堆積と思われる御岳第一軽石層(Pm-1)が認められた。第2トレンチは幅約1.5m、長さ7.4m、深さ1.2mを掘削し、第1トレンチ同様の茶褐色土層、黄褐色土層を確認した。また2本のトレンチの壁面の観察から、土層は地表面とは異なり東南東方向に緩やかに傾斜していることが確認できた。なお、調査地点は周囲の地形から判断して、過去に住宅を建設するために北部を掘削し、緩傾斜地を平坦化していると思われる。トレンチで確認された土層の傾斜方向が原地形の傾斜方向であろう。

調査の結果、遺構・遺物は検出されなかった。従って、埋蔵文化財の保護措置は不要であり、工事に着手しても差し支えないと判断される。



試掘調査 位置図

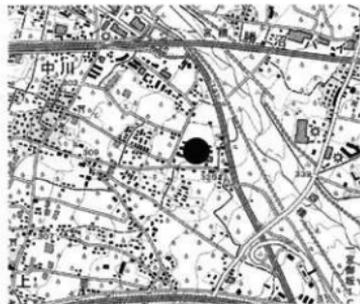
3-10 県立かえで支援学校分教室体育館 建設事業に伴う試掘調査

所在地	笛吹市石和町中川1400
調査期間	2014年9月11日
調査面積	約47㎡(対象面積約800㎡)
担当者	吉岡弘樹・小田切崇

事業対象地の敷地の一部分が狐原遺跡に該当することや近隣に古墳が点在することなどから試掘調査を実施した。

対象地は甲府盆地東部の金川左岸の扇状地に位置し、金川の現流路に近接する。調査は、地下埋設の水管を避けてトレンチを3箇所設定し、重機で掘削した後、人力で精査して土層の観察を行った。第1トレンチでは上位から盛土層、砂層、暗茶褐色粘質土層、黄褐色土層、砂礫層が観察された。第2トレンチでは、上位から盛土層、砂礫層、砂層、砂礫層が観察された。第3トレンチでは、上位から盛土層、砂層、砂礫層が観察された。最下層の砂礫層は5~30cmの垂円礫を主体とし、トレンチ底まで厚く堆積していた。いずれのトレンチからも遺構・遺物は検出されなかった。

試掘調査の結果、埋蔵文化財の発掘調査は必要なく、工事に着手しても差し支えないと判断される。



試掘調査 位置図

3-11 県立農業大学校有機圃場整備事業に伴う試掘調査

所在地 北杜市長坂町長坂上条3251他
調査期間 2015年2月25日・26日
調査面積 約190㎡(対象面積約7000㎡)
担当者 吉岡弘樹・浅川一郎

事業対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、近接して香場遺跡があることなどから試掘調査を実施した。

事業の概要は、農業大学校敷地中央付近の旧鶏舎および旧豚舎の残存建物と地下構造物を撤去し、敷地南部の農業機械実習圃場にある土の上部を客土して有機圃場とするものであり、圃場の北東部に小規模なプレハブの建設も計画している。

試掘調査は有機圃場予定地に3条、客土取り用の農業機械実習圃場に2条のトレンチを設定し、重機により掘削の後、人力による精査を行い土層の観察と遺構・遺物の有無確認を行った。有機圃場予定地では地表下160cmまで掘削したところ、表土の下はトレンチ底まで火山噴出物(ローム層)が堆積していた。そのうち、地表下50cm前後からトレンチ底近くまでは約10万年前に降下した御岳第一軽石(Pm-1)が堆積していた。遺構・遺物は検出されなかった。なお、調査地は周囲の地形から判断して、東から西へ緩やかに傾斜していたものを、東部を最大3m程度掘削して平坦化したと考えられる。農業機械実習圃場は原地形では南から北へ傾斜していたが、南部を数m掘削し北部は厚く客土して平坦化したことや機械実習により掘削と埋戻しが繰り返されている場所であることを事前に聞き取りで確認した。トレンチは地表下140cmまで掘削したところ、トレンチ底まで火山噴出物が堆積していた。安定した堆積を示す部分もあったが、客土と思われる層相や機械実習による攪乱が広く認められた。遺構・遺物は確認されなかった。

以上から、埋蔵文化財保護のための発掘調査は必要なく、工事に着手しても差し支えないと判断される。



試掘調査 位置図

3-12 国営施設機能保全事業(笛吹川沿岸地区)に伴う殿林遺跡の埋蔵文化財包蔵地の範囲確認調査

所在地 甲州市塩山上萩原地内字殿林203他
調査期間 2015年2月9日・10日・12日・13日
調査面積 約50㎡(対象面積約50㎡)
担当者 吉岡弘樹・浅川一郎

農林水産省関東農政局西関東土地改良調査管理事務所笛吹川沿岸支所(以下、農水省笛吹支所と略す)は国営施設機能保全事業(平成24～33年度)として、昭和40年代から60年代にかけて笛吹川の両岸に敷設された農業用灌漑水路および関連施設の改修を実施している。

事業対象地の随所が周知の埋蔵文化財包蔵地に該当することが確認されている。このことから、農水省笛吹支所と学術文化財課、埋蔵文化財センターとの協議に基づき、周知の埋蔵文化財包蔵地の一つである殿林遺跡において地権者より発掘調査承諾書が得られた個所で範囲確認の調査をすることとした。

調査地は重川や文殊川の段丘面で南西方向に緩やかに傾斜しており、調査地の南部からは重要文化財に指定されて



試掘調査 位置図

いる曾利式土器が出土している。土地利用はモモの果樹園がほとんどである。

調査手順は、承諾の取れた農地に1.5m×1.5mのトレンチを17箇所設定し、果樹の樹根に注意しながら人力により掘削と精査を行い、土層の観察や遺構・遺物の有無確認を実施し、後に現状に復した。

各トレンチの土層観察を実施した結果、深淺の差はあるものの表土+耕作土の下に淡茶褐色土層あるいは暗茶褐色土層、黄褐色土層、暗茶または褐色土層が確認された。黄褐色土層と暗茶褐色土層は風化の著しい花崗岩が多く入り硬化面を呈している事から地山層と推定される。この硬化面は深度0.5～1mで検出される。遺物の出土は少なく、第5・11号トレンチより縄文中期の土器片が数点、出土した。遺構は第11号トレンチで土坑2基が淡黒褐色土を掘り込んで確認され、第13号トレンチからは黄褐色土の硬化面よりピットが検出された。周辺の調査や聞き取り調査により、重要文化財に指定された曾利式土器の出土地近くに設定した第4号トレンチから南の文殊川へ下る斜面は、急傾斜地であったものを地権者によって埋め立てられ緩傾斜の果樹園として整備されたことが確認された。

今回の調査区画は住居跡も検出されずその他の遺構や遺物も少ない事から燧林遺跡の縁辺部にあたると考えられる。

3-13 国営施設機能保全事業(笛吹川沿岸地区)に伴う安道寺遺跡の埋蔵文化財包蔵地の範囲確認調査

所在地	甲州市塩山下栗生野202他
調査期間	2015年2月16日・18日・19日・20日
調査面積	約30㎡(対象面積約30㎡)
担当者	吉岡弘樹・野代恵子・浅川一郎

農林水産省関東農政局西関東土地改良調査管理事務所笛吹川沿岸支所(以下、農水省笛吹支所と略す)は国営施設機能保全事業(平成24～33年度)として、昭和40年代から60年代にかけて笛吹川の兩岸に敷設された農業用灌漑水路および関連施設の改修を実施している。

事業対象地の随所が周知の埋蔵文化財包蔵地に該当することが確認されている。このことから、農水省笛吹支所と学術文化財課、埋蔵文化財センターとの協議に基づき、周知の埋蔵文化財包蔵地の一つである安道寺遺跡において地権者より発掘調査承諾書が得られた個所で範囲確認の調査をすることとした。

調査地は重川の段丘面で南西方向に緩やかに傾斜している。土地利用はモモを中心とした果樹園である。

調査手順は、承諾の取れた農地に1.5m×1.5mのトレンチを13箇所設定し、果樹の樹根に注意しながら人力により掘削と精査を行い、土層の観察と遺構・遺物の有無確認を実施し、後に現状に復した。

各トレンチの土層観察を実施した結果、表土+耕作土の下に第1～4トレンチでは暗茶褐色土の堆積が見られ、その下に黄褐色土が存在した。第2トレンチにおいては住居跡と思われる土色変化が壁面底面に認められた。第5・6・7トレンチは調査対象地の南部にあたり、営農活動のためそれぞれ違った土層が観察された。第10～12トレンチでは表土+耕作土の下にやや締まりのある茶褐色土があり、第12トレンチでは上坑が1基検出された。さらに、第12トレンチからは茶褐色土層と黄茶褐色土層に挟まれて薄い焼土も確認された。遺物は縄文時代中期を中心とした土器類・石器類が全てのトレンチより多数出土している。また、聞き取り調査により当地は営農に力を入れており、地権者によってかなりの深度にまで土壌改良が行われていることも判明した。

今回の調査区画は第2トレンチにて住居跡の存在が想定できたり全てのトレンチから土器類が出土したりすることから安道寺遺跡主要部分近くにあたると考えられる。



調査調査位置図

3-14 曾根丘陵公園整備関連に伴う 試掘調査

所在地 山梨県甲府市下向山町地内
調査期間 2014年5月19日～23日
調査面積 約44㎡(対象面積約44㎡)
担当者 網倉邦生・藤原真史・浅川一郎・柴田亮平
新津 茂

曾根丘陵公園内にある鍋弦塚の東に隣接して凹地(落ち込み地形)が複数確認されており、地下式坑の可能性が指摘されていた。今回、その性格や内容を把握するため、凹地の1つについて試掘調査を実施した。

凹地群は曾根丘陵上の地形面と甲府盆地の低地を結ぶ斜面に形成された小規模な緩傾斜面に位置している。今回調査したのは曾根丘陵公園内の園路に最も近い凹地であり、その平面形は4.93m×3.16mの楕円である。

人力により掘削して落ち込みの内部の土層を観察したが、表土層下で地下式坑の天井部に比定可能な地山層が検出されず、ビニール片などを含むしりまない暗褐色土層が認められた。そこで、落ち込みの底部を確認するため、重機で凹地の西側から地山にかけてトレンチを掘削したところ、凹地底下0.6mで直径0.2mの丸太が3本南北方向に長軸を向けた状態で検出された。丸太の下にはブルーシートが敷かれ、その下に自然堆積の地山層が確認された。

以上から、今回調査した凹地は地下式坑ではなく、公園整備時に、地盤を安定させるために行った土留め工部分が陥没したものであると考えられる。なお、本調査地点の周囲には複数の落ち込みが確認されており、これらは遺構の可能性もあるため、工事施工時には立会調査を要する。



試掘調査 位置図

3-15 県立都留興譲館高校第一期建設 電気設備事業に伴う立会調査

所在地 山梨県都留市上谷5丁目7-1
調査期間 2014年6月5日
調査面積 約10㎡(対象面積約10㎡)
担当者 吉岡弘樹・浅川一郎

事業予定地が周知の埋蔵文化財蔵地である三ノ罫遺跡にあることから立会調査を実施した。

工事はハンドホール用縦坑と電気配管用管路溝の掘削である。ハンドホール坑は2m四方を深さ最大1.4mまで掘削した。ほとんどが既掘削による攪乱層であったが、縦坑の南東面の一部は新規に掘削され良好な土層堆積が観察できた。そこでは、上位より、約20cmのアスファルトおよび碎石層、暗茶褐色土層、黄褐色土層、暗黄褐色土層が観察できたが、遺構や遺物の検出はなかった。また、当初予想された溶岩には達しなかった。

管路溝は幅1m、長さ6m、深さ60cmを掘削した。アスファルトおよび碎石の下は、既掘削後の砂質または砂礫質の埋め戻土であり新規の掘削はなかった。



立会調査 位置図

3-16 駒沢川改修事業に伴う立会調査

所在地 笛吹市鎮目5263他
調査期間 2014年4月10日
調査面積 約12㎡(対象面積約12㎡)
担当者 吉岡弘樹・浅川一郎

事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である熊野南遺跡および棚田遺跡の範囲に当たるため、立会調査を行った。現状では河川の両岸はコンクリートと石積みの混在した擁壁になっている。工事は既存の擁壁を撤去し、新規に全域をコンクリート壁にするものである。その際、川幅を拡張するために左岸を50cm程度掘削する。

調査は左岸において、工事区間の両端と中心付近の3カ所でトレンチを設定して行った。重機により石積みの擁壁を幅約1.5m、奥行き50cmの範囲で河床まで約2m掘削したのち、断面を精査し、遺構・遺物の有無や土層堆積状況の確認を行った。第1トレンチ(南端:下流)および第2トレンチ(中間)では約20cmの表土の下に3層が確認できた。第1層は茶褐色砂質土層でありやや絞りにかける。第2層は暗茶褐色砂質土層である。第3層は茶褐色粘質土を基質とする5~10cmの垂門礫層であり、この礫は河床礫と同じ構成である。なお、第2層まで部分的に攪乱が認められた。いずれの層からも遺構・遺物は検出されなかった。第3トレンチ(北部:上流)は表土の下は石積み時の表込めの礫であり、全面が攪乱されており、遺物も検出されなかった。

以上から工事区間には遺跡はないと考えられたため、現地でも工事を進めても差し支えない旨を伝えた。



立会調査 位置図

3-17 日川外浚渫事業(管理用道路建設)に伴う立会調査

所在地 甲州市勝沼町下岩崎・等々力地内
調査期間 2014年11月5日~2015年3月18日
調査面積 約9000㎡(対象面積約9000㎡)
担当者 吉岡弘樹・浅川一郎

日川外浚渫事業用の管理用道路を日川のぶどう橋~野呂橋間の左岸に建設することとなったが、事業対象地には周知の埋蔵文化財である「日川水制群」のうち7基の水制が存在し、工事掘削により水制の外観が検出されるため、工事立会を実施することとなった。

本事業では、日川水制群は現状を維持しつつ保護層で覆ったのち現地保存する設計となっている。立会調査では重機・人力による法面掘削作業・清掃作業の後に水制の石積み状況や周囲の状況を観察した。

その結果、ほぼ表面に水制の天端が確認された。水制の周囲は約2m以上の厚い表土+堆積土の下に地山層である黄褐色土層が見られた。遺物の検出は無かった。

立会調査の結果、当該工事は計画どおりの施工がなされたため、水制群の保護には支障はなかった。



立会調査 位置図

3-18 火打石急傾斜地崩壊対策事業に伴う立会調査

所在地 南巨摩郡南部町福土23400
調査期間 2014年6月2日・12月24日
調査面積 約20㎡(対象面積約20㎡)
担当者 吉岡弘樹・浅川一郎

事業予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である火打石遺跡にあたる。工事の概要は山地斜面基部を掘削して擁壁を建設するものであるが、掘削地の一部が平地であることから、立会調査を実施した。

6月2日の調査では、事業予定地内の平地において3本のトレンチを掘削し埋蔵文化財の確認を行った。トレンチは幅約1m、長さ約2mで、掘削深度はそれぞれ70cm、100cm、130cmである。いずれのトレンチでも工事用整地土および表土の下は数cm～10cm程度の角礫を多く含む褐色土層が認められた。12月24日は法面掘削工事に立ち会い、薄い表土層とその下の角礫を多く含む褐色土層を確認した。両日ともに認められた角礫を含む褐色土層は斜面堆積物であり当地点における地山層である。

調査の結果、両日とも遺構・遺物は検出されなかった。しかし、工事範囲に近接して江戸期(元禄)の銘が読み取れる屋敷墓があり、工事範囲にも埋没している可能性もあることから、工事責任者に十分注意するよう喚起を促した。



立会調査 位置図

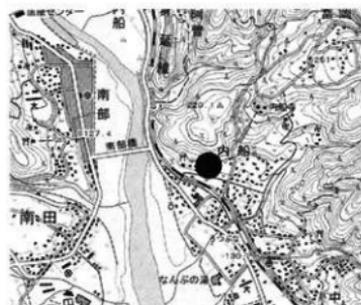
3-19 舟久保急傾斜地崩壊対策事業に伴う立会調査

所在地 南巨摩郡南部町内船地内
調査期間 2014年6月10日、平成27年1月23日
調査面積 約60㎡(対象面積約60㎡)
担当者 吉岡弘樹・浅川一郎

事業予定地に隣接して周知の埋蔵文化財包蔵地である馬場道上遺跡があるため立会調査を実施した。工事は山地斜面と河岸段丘をむすぶ緩傾斜地を掘削して擁壁と落石防止柵を建設するものである。背後の山地は斜面形態から小規模な地滑りまたは表層の崩壊が頻発しているようである。

6月10日の立会調査では、2本のトレンチを掘削し、断面の観察と遺構・遺物の有無確認を行った。第1トレンチでは110cmの盛り土および表土の下に地山層である明茶褐色土層が見られ、その下に茶褐色土層、淡黄褐色土層と続いていた。第2トレンチでは70cmの盛り土および表土の下に暗黄褐色土層があり、さらに第1トレンチと対応する小礫を多く含む茶褐色土、淡黄褐色土による地山層が観察できた。地山層は数cmの角礫を含んでいて斜面堆積物と考えられる。いずれのトレンチでも遺構・遺物の検出はなかった。

1月23日の立会調査対象地は6月10日の立会調査地点の西側である。ここでは法面掘削に立ち会った。その結果、見かけの厚さが数10cm～200cm程度の表土層とその下の角礫を含む黄褐色土層が確認できた。黄褐色土層は地山層であり斜面堆積物である。当地点からも遺構・遺物の検出はなかった。



立会調査 位置図

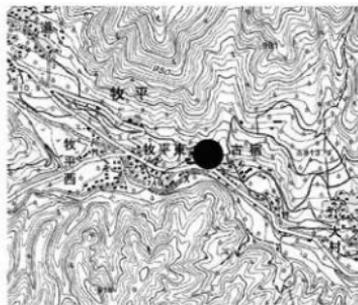
3-20 押出沢急傾斜地崩壊対策事業に伴う立会調査(踏査)

所在地 山梨市牧丘町牧平16
調査期間 平成2014年6月12日
調査面積 約300㎡(対象面積約300㎡)
担当者 吉岡弘樹・浅川一郎

事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である押出沢遺跡の隣接地であることから工事に先立ち現地踏査による調査をおこなった。当地は山間地に位置し、東流する押出沢川左岸の山地斜面にあたる。今年度の工事は牧丘第三小学校グラウンド北に接する斜面の東半分が対象となる。工事の概要は、既存の擁壁と落石防止柵を撤去したのち新たな擁壁を施工し、擁壁上方の斜面に法枠工を実施するものである。新しい擁壁建設に伴う掘削は既存の擁壁設置時の掘削範囲を超えない。

法面工計画の斜面は急傾斜であり、所々で表層の崩れが認められ巨礫の浮き石が散在している。斜面とグラウンドとの傾斜変換はシャープであり、斜面基部を削平してグラウンドを造成した様子が伺える。

以上のように、斜面の形状や地形の人工改変の状態から、当該地に押出沢遺跡の範囲が拡張される可能性はなく、埋蔵文化財の保護措置は必要ないと判断される。



立会調査 位置図

3-21 国立公園等整備事業三湖台園地整備事業に伴う立会調査

所在地 北部留都富士河口湖町西湖地内
調査期間 平成2014年5月20日
調査面積 約15㎡(対象面積約15㎡)
担当者 吉岡弘樹・浅川一郎

三湖台は西湖の南に位置する御坂山地の後線上に位置する。標高1,202mをピークとして南北に長い平坦面を有し、展望もよいことから、当地が遺跡地の可能性があるため立会調査を実施した。平坦面上は裸地が広がり、周辺部には雨水の侵食による小谷が認められる。また、過去の園地整備により掘削や改変がなされている様子がうかがえる。

本事業は三湖台園地の再整備であり、老朽化した標識、ベンチ、野外草などの更新や展望デッキを新設する工事である。立会調査は、工事による掘削深の深い展望デッキ建設予定地(園地北部の緩斜面部分)において、重機でトレンチ(幅2m、長さ8m、深さ0.5m)を掘削した後、遺構・遺物の確認や土層断面の観察を行った。その結果、展望デッキ建設予定地のほとんどは、過去に存在した売店や残存する石垣の設置の際に大きく掘削され攪乱を受けていた。遺構・遺物の検出は無かった。その他の地点については地表面および小谷の断面などを観察したが、遺構・遺物は検出できなかった。

以上から、本事業の工事区間において埋蔵文化財の保護措置は必要ないと判断される。



立会調査 位置図

3-22 曾根丘陵公園水道管移設事業に伴う立会調査

所在地 甲府市下曾根町地内
調査期間 平成2014年5月7日・8日
調査面積 約20㎡(対象面積約20㎡)
担当者 吉岡弘樹・浅川一郎

曾根丘陵公園内の考古博物館南に位置する岡路の下に埋設されている水道管移設に伴う掘削工事において、当該地が岩清水道跡隣接地であることから立会調査を実施した。

立会調査は重機と人力によって掘削した幅約2m、長さ約5mのトレンチ3箇所を観察した。深さは水道管が検出された地表下約150cmまでである。当初は2箇所の掘削を想定していたが、橋の南西側において水道管が想定した箇所から検出できなかつたため、3箇所を掘削することとなった。水道管が埋設してある地表下約150cmまではアスファルト、砕石、砂質土などの既掘削工事による人為的な整地層であった。水道管検出面より下位は地山層と思われる暗茶褐色粘質土層であり、5～10cm程度を掘削したが、遺構・遺物は検出されなかった。

以上から立会調査地において埋蔵文化財の保護措置は必要なく、工事を進めても問題ないと判断した。



立会調査 位置図

3-23 曾根丘陵公園方形周溝墓広場ベンチ等撤去事業に伴う立会調査

所在地 甲府市下山町地内
調査期間 平成2014年5月19日
調査面積 約5㎡(対象面積約5㎡)
担当者 吉岡弘樹・浅川一郎

本事業は曾根丘陵公園南部の方形周溝墓広場において、ベンチ、緑台、野外卓、吸い殻入れ、ゴミ入れなどのうち老朽化したものを撤去する工事である。方形周溝墓広場は、多くの方形周溝墓が検出された上の平道跡に該当することから立会調査を実施した。

現在の広場には、復元方形周溝墓3基とレンガおとび植栽による表面表示方形周溝墓32基があり、その他の部分は芝生が植えられベンチ等が設置されている。これらの施設は方形周溝墓の遺構を埋設保存するため1mの盛り土を行った上に造作されている。

ベンチ等は重機によりコンクリートの基礎ごと抜き取って撤去した。立会調査ではベンチ・くず入れ・吸い殻入れの抜き取り痕を観察した。抜き取りによる掘削の規模は最大でも50cm四方、深さ50cm程度で有り、調査地点すべてで芝生と数cmの表土につつき、掘削深度まで盛り上りであった。前述の通り、広場は1mの盛り土を施し造作されており、立会調査の結果、本事業では埋設保存されている遺構には影響を与えないことが確認された。



立会調査 位置図

3-24 曾根丘陵公園水道漏水修理事業に伴う立会調査

所在地 山梨県甲府市下曾根町字岩清水950他
調査期間 平成2014年10月27日
調査面積 約6㎡ (対象面積約6㎡)
担当者 吉岡弘樹・浅川一郎

曾根丘陵公園内の風土記の丘研修センターと考古博物館を結ぶ管理用道路下に敷設してある水管の漏水改修工事に伴い、当地点が東山北遺跡隣接地であることから遺跡が拡張される可能性があるため立会調査を実施した。

工事は重機と人力によって約1m×2mのトレンチを水管が露出するまで3箇所掘削した。第1トレンチおよび第3トレンチは管理用道路上に位置し、第2トレンチは止水栓と散水栓がある道路脇路肩に位置する。掘削深度は第1トレンチで約120cm、第2トレンチで約90cm、第3トレンチで約120cmであった。

第1トレンチはアスファルトの下は水管まで碎石層であり、トレンチ底面に茶褐色粘質土層が認められた。茶褐色粘質土層の掘削は数cm程度であり、遺構・遺物は検出されなかった。第2トレンチは表土層(層厚20cm)の下に茶褐色土層が認められたが、止水栓と散水栓を埋設した時の埋戻し土が主体で新規の掘削はほとんどなく遺構・遺物は検出されなかった。第3トレンチはアスファルトの下は碎石層、発生土層、砂層であり、遺構・遺物は検出されなかった。

いずれのトレンチもほぼ既掘削範囲内の掘削であり、遺構・遺物の検出はなく工事は終了した。



立会調査 位置図

3-25 曾根丘陵公園防災公園整備事業に伴う立会調査

所在地 甲府市下曾根町地内
調査期間 平成2015年1月8日～1月29日
調査面積 約200㎡ (対象面積約200㎡)
担当者 吉岡弘樹・浅川一郎

曾根丘陵公園(防災公園)整備事業の一環として日本庭園の园路を拡幅することとなったが、それに先立ち园路周辺の樹木の一部を移植または伐採・抜根する必要が生じた。

当該地が周知の埋蔵文化財(茶塚)である「岩清水遺跡」や「かんかん塚(茶塚)」に近接することから、移植、抜根、移植先の縦穴の掘削時に立会調査を実施した。なお、事前の現地協議で、かんかん塚や杯塚の周辺には移植をしないことを確認した。

調査の結果、撓乱や碎石の範囲を除くと、上位より盛り土(I層)、褐色土(II層)、暗褐色土(III層)が認められた。园路北部は50～60cmを掘削し、I層は50cm、II層は10cm程度であった。园路南部は100cm前後を掘削し、I層は30cm、II層は70cm程度で小角礫を含んでいた。杯塚の東約20m付近には複数の移植先の縦穴を掘削した。その掘削深度は110cm前後でI層(25cm)、小角礫を含むII層(30cm)、同じく小角礫を含むIII層(50cm以上)が認められた。

調査の結果、遺構、遺物は検出されず、埋蔵文化財の保護措置は不要であった。



立会調査 位置図

3-26 甲府地方家庭裁判所都留支部新庁舎 建設事業に伴う立会調査

所在地 都留市中央二丁目1-1
調査期間 2014年2月9日～16日
調査面積 約57㎡（対象面積約57㎡）
担当者 網倉邦生・柴田亮平・塩谷風季



立会調査 位置図

今回、立会調査の対象となった工事は、1)石垣解体工事、2)樹木の移植工事、3)樹木の抜根工事、4)新庁舎施工範囲内の掘削工事である。石垣解体工事は、仮庁舎入り口付近にある石垣と敷地東側にある石垣を対象に行った。石垣の底面は、道路より10cm下に位置し、近代の遺物包含層である明茶褐色土層に構築されており、石垣の内部からは、近代の陶磁器や瓦が出土した。このため、石垣の構築時期は近代以降であると考えられる。樹木の移植工事は、敷地東側に植えられていた樹木を西南隅に移すために行われた。まず、敷地西南隅を深さ80cmまで掘削したところ、黒褐色土層中に50cm×20cmの焼土の広がり確認されたため、写真で記録した。敷地東側の樹木の周囲を深さ70cmまで掘削したが、土層に変化は認められなかった。これは、樹木周囲に盛土が行われていたためである。樹木の抜根工事は、深さ45cmまで掘削したが、土層に変化が見られなかった。

新庁舎施工範囲内の掘削工事によって、事業者が認識していた調査範囲が、実際より1m内側であるため、新規の掘削範囲が2mとなることが把握された。このため、東京高等裁判所と学術文化財課、理蔵文化財センターで協議を行い、施工範囲と調査範囲を対照させた上、新規に掘削する地点を次年度発掘調査することとなった。

甲府地方家庭裁判所都留支部の敷地内は、ほぼ全ての範囲で理蔵文化財が確認されるため、調査対応が必要である。

第三章 県内の概況

1 届出件数と内容

平成19年度より文化財保護法施行令第5条により県教育委員会が行うこととされている文化財保護法第93条の指示及び第94条の勧告に係る権限の一部を、富士吉田市を除く11市に移譲し、平成20年度には富士吉田市へ、平成22年度には身延町および富士河口湖町へ権限を移譲したことにより、県下の14市町へ文化財保護法第93条・第94条に係る権限の一部を移譲した。権限移譲を行ったのは指示・勧告のうち工事立会、慎重工事などの軽微なもので「発掘調査」や「試掘・確認調査」の指示・勧告は現行どおり県教育委員会にて行っている。権限移譲にあたって、埋蔵文化財の専門知識と客観的かつ合理的な基準が必要となることから埋蔵文化財専門職員が設置されている自治体を対象とし、山梨県教育委員会の事務処理の特例に関する条例の一部を改正する条例により実施した。よって平成19年度以降の届出件数について、権限移譲した分があるため県への届出件数が減少している。

平成26年度、県内の埋蔵文化財調査による届出件数については、法92条：6(8)件、法93条：184(195)件、法94条：36(50)件、法96条：1(0)件、法97条：6(2)件、法98条：0(0)件、法99条：187(242)件である。届出の総件数は420(497)件であり、前年度と比較すると、その件数は77件の減少となっている。

※()内数字は前年度。過去20年間の件数の変遷は56頁の表のとおり。

2 発掘調査

平成26年度に実施された県内の発掘調査件数は、56頁の表のとおり試掘調査を含めて193(250)件(発掘調査学術調査等含む)となっている。その内訳は、県教委による調査が14(14)件、市町村教委による調査が173(228)件、民間調査組織による調査が6(8)件である。発掘調査の原因は、道路20(28)件、鉄道0(0)件、河川1(1)件、学校建設3(3)件、集合住宅10(7)件、個人住宅38(93)件、工場5(1)件、店舗8(7)件、個人住宅兼工場又は店舗0(3)件、その他建物21(30)件、宅地造成39(26)件、土地区画整理1(2)、公園造成0(0)、ガス・電気・電話・水道0(2)件、農業基盤整備事業14(13)件、農業基盤整備事業以外の農業関係事業0(0)件、土砂採取0(1)件、その他開発24(27)件といった緊急調査と、学術調査3(2)件、保存目的の範囲確認6(4)件、遺跡整備0(0)件があった。緊急調査では、地方公共団体が行う公共事業では道路などが目立ち、民間開発においては宅地造成や太陽光発電施設設置に大幅な増加傾向がみられる。 ※()内数字は前年度。

3 国指定有形文化財(考古資料)及び国指定史跡

平成26年度は、国指定史跡御師使川田堤防(将棋頭・石積出)について、江戸時代に開削された徳島堰の水門を守るために築かれた「辨形堤防」が10月6日に追加指定された。

また、県指定有形文化財(考古資料)では、国指定史跡鏡子塚古墳の周濠から出土した木製品70点が「鏡子塚古墳出土木製祭具」として9月4日に指定された。指定品には、立柱や笠形木製品、円盤状・蕨手状・棒状の木製品を組み合わせた製品などがあり、古墳で行われた祭祀を研究するうえで重要な資料である。

4 発掘調査の成果と保存整備事業

平成26年度に実施された県内の発掘調査件数は、試掘調査を含めて193件(学術調査等含む)である。

甲府市の甲府城跡では、県庁敷地内において温泉関連施設の可能性がある江戸時代の敷石遺構が確認され、注目された。韮崎市の武田東畑遺跡では、武田信義に関わると考えられる石敷きの蔵跡や宴の痕跡を示すかわらけ廃棄土坑などが発見された。都留市谷村城では、江戸時代に郡内地域を納める代官所「谷村陣屋」が設けられた場所からカキやサザエなどの貝類や動物の骨がまとまって発見され、江戸時代の絵地図とおりの水路が確認されるなど話題となった。甲州市の白山平経塚では、初の学術調査が行われた結果、経塚の外容器やふたの破片、刀身や中国の古銭などが確認さ

れ、長期に亘って同所が経塚として使われていたことがうかがえる発見となった。

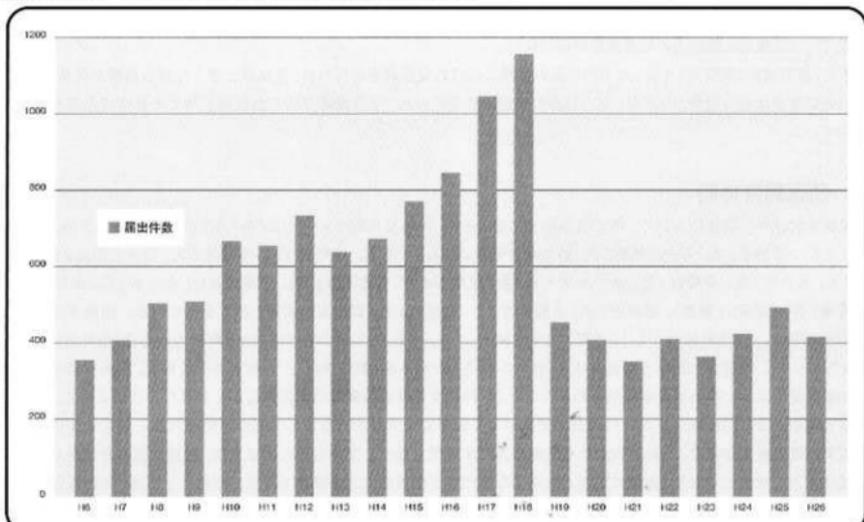
保存整備事業としては、国指定史跡である武田氏館跡（甲府市）で西曲輪南側の罫形虎口及び土塁の修理や、今後の整備に向けた梅翁曲輪周辺の発掘調査が行われた。

また、新城跡（韮崎市）では、大手門周辺の整備に向けた発掘調査が行われ、登城道と考えられる遺構が発見された。県指定史跡では遠方屋敷（山梨市）で内郭部の整備工事が行われ、甲府城跡では石垣補修工事とそれに伴う調査が実施されている。

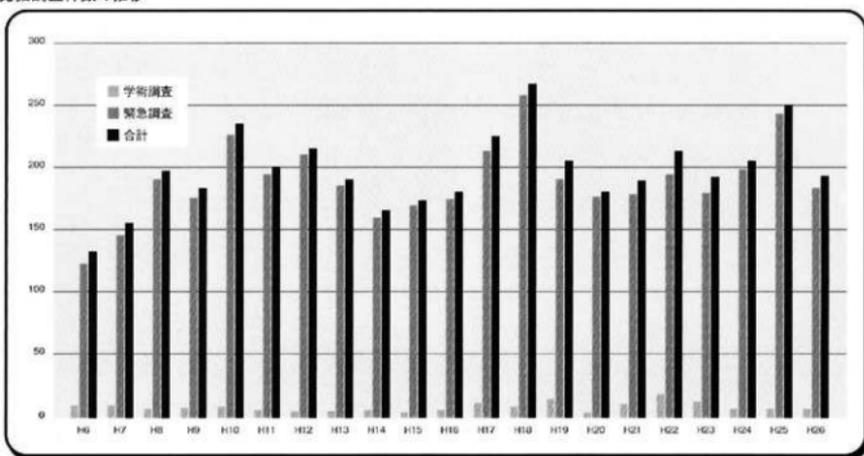
5 発掘調査体制

埋蔵文化財専門職員について、県では学術文化財課4名、埋蔵文化財センター22名（うち教員派遣交流3名、非常勤嘱託4名）、博物館2名、考古博物館5名（外に非常勤嘱託2名）である。市町村では、甲府市6名、富士吉田市2名、甲州市2名、大月市1名、韮崎市3名、南アルプス市3名、笛吹市4名（東北派遣1名）、甲斐市2名、北柱市4名、山梨市3名、中央市1名（昭和町を兼務）、都留市1名、上野原市1名、身延町1名、富士河口湖町1名となっている。埋蔵文化財担当者の配置率は、27市町村のうち16市町村で約59%となり、平成15年度の61%（64市町村のうち39市町村）と比べ減少している。埋蔵文化財担当職員数は54名から18名減の36名（嘱託等含む）の配置状況であり、市町村合併や発掘調査事業量の減少に伴い組織編成が行われたことや、埋蔵文化財専門職員の配置換えが行われたことによって、配置職員数も減少となっている。また専門職員の退職がここ数年で大きな山を迎えることが予想される。さらに文化財専門職員未設置の自治体では、文化財行政にも支障をきたす事例も発生している。このように、埋蔵文化財行政をとりまく環境は大きく変化しており、実情に見合った適切な専門職員配置は大きな課題である。行政としては、記録保存のための発掘調査の実施にとどまらず、これまでの膨大な調査成果の蓄積を適切に保存・活用し、歴史を活かした地域づくりに資するなど、多様な業務を実施し、国民の期待に応えることが求められている。

届出件数の推移 ※H19年以降は各市町村内での処理件数は含まない。



発掘調査件数の推移



N.º	題名	著者名	所在館	編目 (年)	種別の種類	題名の年代	記載施設	調査目的	調査主体	調査期間
162	大下集治一遺稿	甲斐山天下吉	甲斐館	2517冊	小説	小説	文庫	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.21 ~ 1972.3
163	足下遺稿	福江守直	甲斐館	50冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.19
164	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	300冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.3 ~ 1972.28
165	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	179冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.11.14 ~ 1972.27
166	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	142冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.17 ~ 1972.16
167	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	946冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.12 ~ 1972.19
168	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	2618冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.3 ~ 1972.24
169	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	1588冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.17 ~ 1972.10
170	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	372冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.17 ~ 1972.10
171	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	1806冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.17 ~ 1972.10
172	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	82冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.17 ~ 1972.10
173	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	175冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.17 ~ 1972.10
174	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	70冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.17 ~ 1972.10
175	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	325冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.17 ~ 1972.10
176	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	180冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.17 ~ 1972.10
177	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	30877冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.17 ~ 1972.10
178	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	90冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.17 ~ 1972.10
179	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	51.61冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.17 ~ 1972.10
180	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	60冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.17 ~ 1972.10
181	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	90冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.17 ~ 1972.10
182	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	130冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.17 ~ 1972.10
183	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	100冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.17 ~ 1972.10
184	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	699冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.17 ~ 1972.10
185	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	1012冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.17 ~ 1972.10
186	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	100冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.17 ~ 1972.10
187	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	103冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.17 ~ 1972.10
188	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	300冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.17 ~ 1972.10
189	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	2290冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.17 ~ 1972.10
190	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	6000冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.17 ~ 1972.10
191	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	15300冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.17 ~ 1972.10
192	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	300冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.17 ~ 1972.10
193	藤田定次遺稿	藤田定次	甲斐館	2700冊	小説	小説	個人任七	甲斐史教育委員会	甲斐史教育委員会	1972.17 ~ 1972.10

